「Mozilla Prism」があればWebブラウザいらず

http://labs.mozilla.com/projects/prism/

通常はWebブラウザから起動する必要があるWebアプリだが、「Firefox」のプラグインである「Mozilla Prism」を使えば、まるで通常のソフトを使っているような感覚で利用できる。これにより Webブラウザを Webアプリに占領されることがなくなるので、作業効率はアップするはずだ。

デスクトップにショートカットを作成しておけば、ほとんど普通のソフトと変わらない感覚でWebアプリを起動できる

Webアプリ進化論

Web2.0の登場以降、Webの技術はすさまじい速度で進展し、便利なWebアプリが次々に登場した。ここでは、Linuxに対応した「使える」Webアプリの一部を紹介しよう

あらゆる画像加工をWeb上で！

FotoFlexer

URL ■ http://fotoflexer.com/

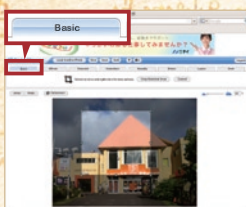
「FotoFlexer」はオンラインで画像編集が行えるサイト。PC上から画像を取り込み、赤目補正や明るさ補正などの作業を行うことができる。さらに、単なる画像修正だけでなく、豊富なエフェクト機能も搭載しているので、アーティスティックな画像もワンクリックで作成可能。FlickrやMySpace、Picasaとも連携し、ソーシャルサービスも行なっているので、画像編集以外にも様々な使い方で楽しめる。

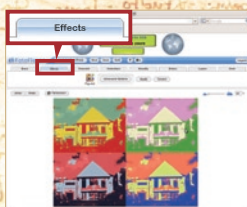
もうPhotoshopはいらない！

色味のエフェクトやリサイズだけでなく、ゆがみなどの特殊効果も豊富に用意されている

旅行先で手軽に画像加工

「FotoFlexer」は多くの機能が搭載されている英語表記のWebアプリなので、海外旅行先などで撮影した画像も、スグに加工してメールなどで友達や家族に送ることができる。

BASIC

赤目修正やトリミング、回転など基本的な操作を行えるタブ。表示する画像サイズを変更することも可能

Effects

ネオンやセピア、ポップアートなど、ワンクリックでさまざまなエフェクトが可能。どんな加工かわかるアイコンもうれしい

●その他の主な機能

Decorate
マークやテキスト、着色などを行ない画像をデコレートできる

Animations
動きのあるアイコンなどを画像に配置して大きさなどを調整できる

Beautify
画像をぼかしたり、シャープにしたりすることが可能

Distort
クリックした場所をつまんだり、ゆがませるなどの加工が行なえる

ソフトを使わず多様なフォーマットへ変換

Movavi Online

URL ■ http://online.movavi.com/

オンラインで動画変換が行なえるサイトは多数あるが、この「Movavi Online」では変換だけでなく、動画の結合を行なうことができる。一度に変換できるのは容量100MB、長さが10分までとなっているが、複数の動画を登録して変換形式を選択、その後「すべてのタスクにビデオをひとつのムービーに統合します」にチェックを入れて変換を開始すると、変換と同時に結合も行なってくれるという仕組みになっている。

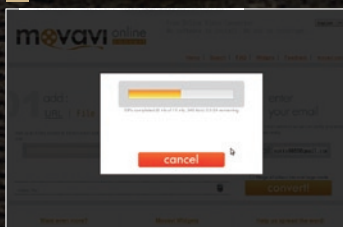
好きなファイル形式に変換

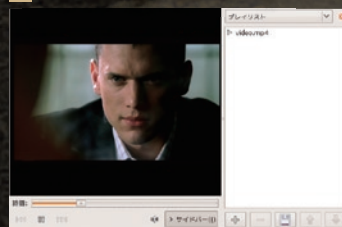
数ある動画変換が可能なサイトの中でも直感的に使えるソフト。ありがちな動作の鈍さも気にならない

主な出力形式
動画● AVI、MP4、MP2、3gp、FLV、Xvid　**音楽●** MP3、WMA

1 ファイルを読み込む

まずは「File」をクリックし「参照」からファイルを読み込む。変換形式を選びメールアドレスを入力したら「CONVERT」を押す

2 ファイルを変換中

ファイル変換が終了するまでしばらく待つ。変換が完了すると、さきほど入力したアドレスへダウンロードリンクが届く

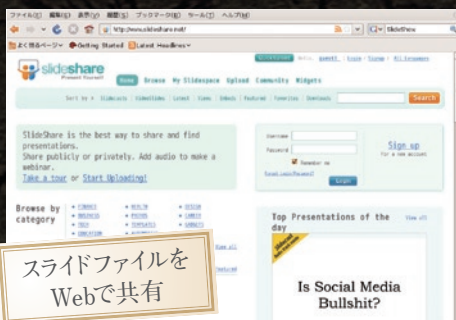
3 ファイルをダウンロード

メールのリンクからファイルをダウンロード。再生できるかどうか確認しておこう

変換スピードもまずまず

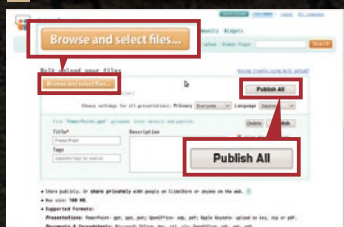
サイトでの動画変換というとかなり時間がかかるイメージがあるが、変換にかかる時間は意外と早い。手軽に使えるので、ソフトを用意するほど動画変換を行なわない人にはありがたいだろう。

その名の通りスライドをシェア

SlideShare

URL ■ http://www.slideshare.net

動画や画像をアップロードする感覚で、パワーポイントやOpen Officeプレゼンテーションファイルなどをアップして Web上で共有できる「SlideShare」。一般的な生活でスライドファイルを利用することは少ないだろうが、ビジネス書類やレポートを共有したいときには、ネット環境さえあれば閲覧できるので、役に立つはずだ。公開したい範囲の設定や言語の選択なども行なえるので、オープンにもクローズドにも使え、とてもありがたい。

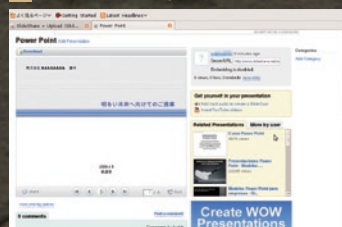
スライドファイルをWebで共有

最大で100MBのファイルをアップすることができるので、画像やページ数が多いファイルにも余裕を持って対応できるはずだ

1 ファイルを読み込む

会員登録後ログインし「Browse ～」からファイルを読み込む。公開する範囲などを決めたら「Publish All」をクリックしよう

2 アップロードを開始する

ファイルが読み込まれるとアップロードが開始される。「here」をクリックすると「My Slidespace」で現状の確認が可能

3 アップロード完了

アップロードが終了し「My Slidespace」で目的のファイルのURLをクリックすると、「YouTube」のような再生画面が表示される

元形式でのダウンロードも可能

スライド再生画面にある「Download」ボタンをクリックすると元ファイルがダウンロードできるので、ビューワ付きアップローダのような使い方もできる。

これさえあればビジネスソフトはいらない!?

ZOHO

URL ■ http://www.zoho.jp/

ビジネスに直結する、あらゆるサービスを提供してくれる「ZOHO」。その多くのサービスは制限付きながら無料で利用できるので、中小規模の企業であれば、かなり実用的に使える。内容はワープロや表計算に始まり、メールにカレンダー、ミーティングなどビジネスシーン以外でも重宝するものも多く、単一アカウントで利用できるのもうれしい仕様だ。ここでは3つに分けられているカテゴリー別に紹介していこう。

オフィス系アプリが目白押し！

一般的なワープロソフトなどだけでなく、かなりの種類がフリーで利用できる

ZOHOのここがスゴイ!!

●ほとんど無料！
有料でなければ使えないソフトもあるが、無料でも使える設定が用意されているものが多い。

●高い互換性！
Word や Excel、PowerPoint などのファイルを読み込むことができ、それらのファイル形式で保存も可能。

●豊富なソフト群！
ワープロソフトやメーラーなどの誰もが使うアプリ以外にも豊富な種類のアプリが用意されている。特に「Zoho Business」は、さまざまなアプリが統合されており、使い勝手も良い。

■まずはユーザー登録をしよう

1 必要項目を入力

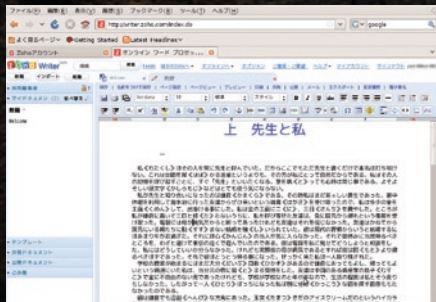
トップ画面からサインインページを開き、ユーザー名やパスワードなどの必要項目を入力し「サインアップ」をクリック

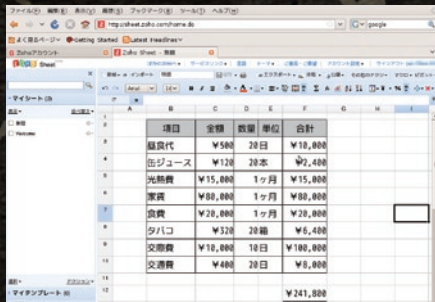
2 メールから本登録

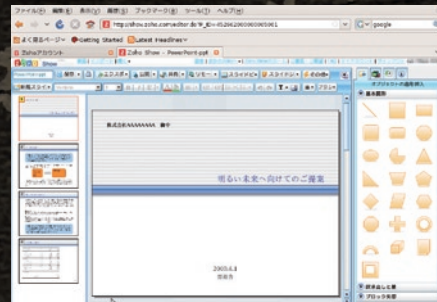
登録したアドレスに「ZOHO」からメールが届くので、リンクから本登録を行なえばOKだ

生産性向上アプリケーション

誰もが高い頻度で使用するワープロや表計算をはじめ、チャットやメモなどのWebアプリケーションを集めたカテゴリー。仕事でパソコンをあまり使わない人でも、プライベートで活用できるさまざまなサービスがひと通り揃っている。

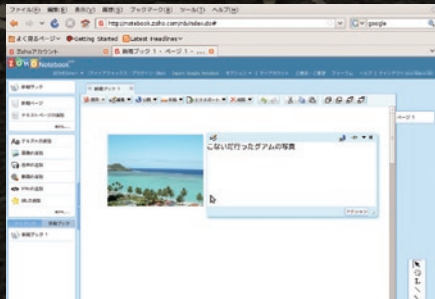
Zoho Writer

Wordファイルなどと互換性があるワープロソフト。作成した文書はワードだけでなくPDFなどさまざまな形式でエクスポート可能

Zoho Sheet

Excelファイルなどと互換性がある表計算ソフト。インポート、エクスポートが可能で、もちろんWeb上に保存しておくこともできる

Zoho Show

PowerPointファイルなどのプレゼンテーションソフトと互換性がある。他のアプリと同様にファイルの共有やPDFでのエクスポートが可能

Zoho Chat

Webアプリとしては、比較的定番といえるチャットアプリ。公開と非公開などを選択でき、無料でも基本的な機能は揃っている

Zoho Notebook

テキストや音声、動画、画像など、さまざまなものをメモしておける機能。もちろんエクスポートもできる

その他の「生産性向上アプリケーション」

Zoho Planner
ToDo リスト、アラーム機能などがあるスケジュール管理ツール

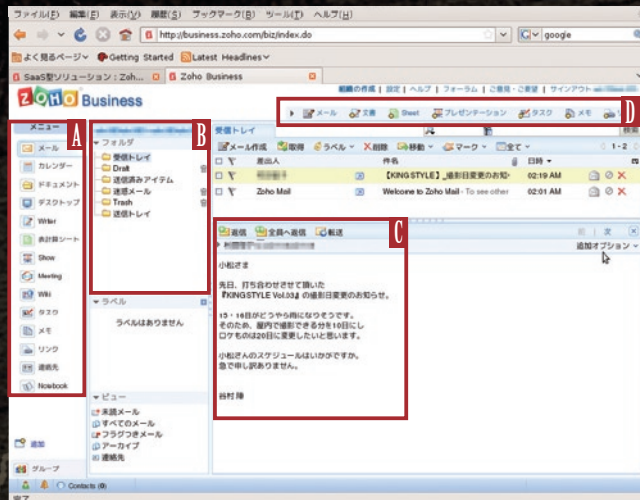
Zoho Share
公開されているドキュメントの一覧表示やドキュメントの情報取得が可能

Zoho Docs
ファイルのアップロードやオンライン作成、閲覧、編集や共有などが行なえるサービス

Zoho Wiki
ホームページの作成や編集、公開などができる Wiki サービス

ビジネスアプリケーション

メールやスケジュール管理ができるカレンダー、ミーティングやワープロなどのサービスを統合した「Zoho Business」を中心とした、ビジネスシーンに使えるカテゴリー。見積もりや請求書の作成、データベースの解析など、様々な職種のユーザーにありがたいサービスが多く、有料サービスでは、さらに高機能なものを利用できる。

Zoho Business メール

A「Zoho Business」に含まれているアプリの一覧が表示されている。クリックした項目へ再サインインすることなく切り替えることが可能だ。

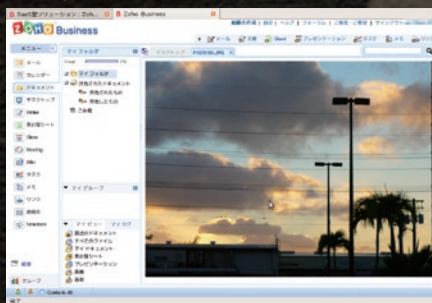
B 現在使用しているアプリのメニューなどが表示される。「メール」の場合は受信トレイや送信済みトレイなどが表示されるエリアとなる。

C 使用しているアプリの実作業スペース。オプションなどを活用すれば表示形式や内容を変更することもできる。

D「Zoho Business」の主要なアプリが表示される。どのアプリを選択していても、基本的には同じ内容が表示されている。

カレンダー

1週間が横に並び各時間帯にスケジュールを記入することが可能。検索ウインドウからはキーワードで予定を検索することもできる。

ドキュメント

現在「Zoho Business」に保存されているドキュメントなどが表示される。他にもデスクトップなどもあるので、一般的なパソコンと同じような使用感で使える。

その他の「ビジネスアプリケーション」

Zoho Creator
プログラムレスですばやく簡単に、オンラインデータベースアプリケーションを構築できる。

Zoho CRM
営業プロセス、マーケティング活動の顧客管理を一元化できるアプリケーション。

Zoho DB & Reports
データベースの解析や豊富なレポート作成機能をもつが英語版。

Zoho Invoice
見積書や請求書の書類作成などが行えるサービス。

Zoho Mail
POP メールや好きなドメインも発行でき、1GB 無料ストレージ付。

Zoho Meeting
オンラインでの会議ができ、デスクトップ共有、ファイルやアプリケーションの操作が可能。日本語化対応中。

Zoho People
英語版だが、組織構成情報の管理、採用プロセスの管理などが行なえる。

Zoho Projects
タスクの進捗や実績管理など、さまざまなツールを備えた管理アプリケーション。

ユーティリティ

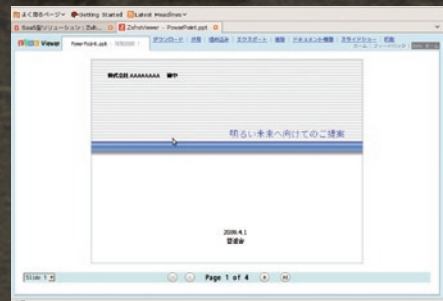
このカテゴリーではアンケートなどが行なえる投票運営アプリや、アカウントなしでドキュメントが閲覧できるビューワなどが用意されている。英語版の試験問題作成サービスの日本語化にも期待したい。

Zoho Challenge

試験問題作成や受験者管理、試験実施が可能なサービス。残念ながら現状では英語版のみとなっている

Zoho Polls

選択型、評価型などの選択が可能なオンライン投票。もちろん、投票結果やコメントを自動集計することもできる

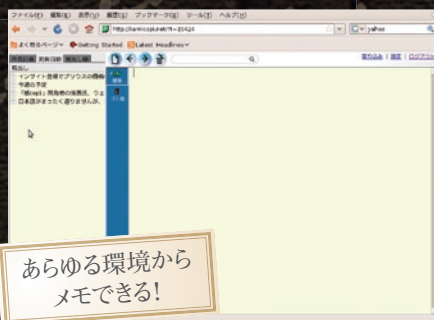
Zoho Viewer

アカウントを持っていなくても、さまざまなドキュメントを閲覧することができる簡易ビューワサービス

必要なものはひと通り揃っている

画像編集などのアプリケーションはないが、とくにビジネス面で役に立ちそうなアプリはひと通り揃っている。メインで使わないにしても、外出先での一時的な使用や、他人のパソコンからの利用など、重宝しそうなシチュエーションは多くあるはずだ。

Webサイトの取り込みも可能

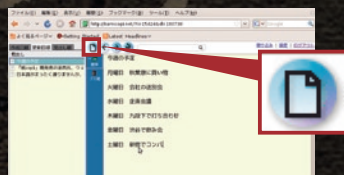
紙copi NET

URL ■ http://kamicopi.net/

ちょっとしたことや、忘れたくない事柄をメモするのにオンラインのWebアプリケーションである「紙copi NET」は最適。必要であればローカルに保存できるのはもちろんのこと、Linux、WindowsなどOSに依存しないので、どんな環境からでも、どんどんメモを書き足していけるのだ。従来の「紙copi」に比べると、物足りなさも残るが、今後のバージョンアップに十分期待できるWebアプリケーションといえるだろう。

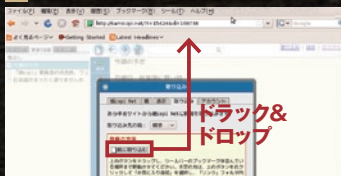
あらゆる環境から メモできる!

Linuxからはもちろん、MacやiPhoneからも利用できるので、あらゆる環境からのメモツールとして機能してくれる

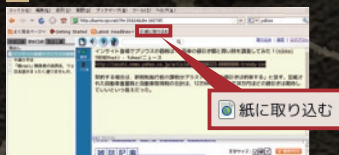
紙copi NET

■メモ機能を使う

ユーザー登録を行ない、ログインしたら新規作成のアイコンをクリック。表示されたスペースにメモを取れば自動的に保存される。削除したい場合は、画面左の一覧で選択し、ゴミ箱のアイコンをクリックする

■サイトをクリッピング

1「取り込み」設定を行なう

ドラッグ&ドロップ

画面右上にある「取り込み」をクリック。表示された画面の「紙に取り込む」ボタンをブラウザのツールバーにドラッグ&ドロップしよう

2 Webサイトを取り込む

紙に取り込む

取り込みたいサイトを表示している状態でツールバーの「紙に取り込む」をクリック。これで他のメモのようにサイトがメモとして取り込まれた

まとめてメモして じっくり作業

「紙copi NET」はWebサイトを取り込めるので、気になるサイトの記事を資料として取り込んでおいて、後でじっくりとブログの記事を書いたりすることが可能となる。

プレイリストの作成&保存が便利!

SeeqPod

URL ■ http://www.seeqpod.com/search/

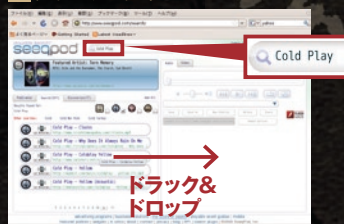
音楽ファイルやCDがなくても音楽が楽しめるオンラインのラジオサービスは数多く存在する。だが、この「SeeqPod」は一切音楽ファイルを持っていなくても、自分の好きな曲を探してオリジナルのプレイリストを作成することができる。作成できるプレイリストもひとつだけではないので、状況に応じてさまざまな音楽を楽しむことが可能だ。また、YouTubeなどの動画も検索対象となるので、より充実した検索結果が期待できるぞ。

好きな音楽を 好きな時に聴く!

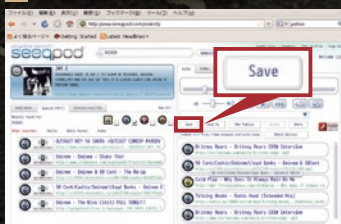
音楽だけでなく、PVなどの動画も検索対象となるので、幅広い楽曲から選ぶことができるのはうれしい

SeeqPod

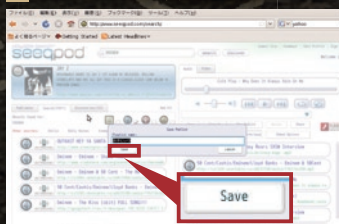
1 曲を検索する

Cold Play

ドラッグ&ドロップ

検索ウインドウにアーティスト名や曲名を入力し楽曲を検索。聴きたい曲が見つかったら画面右のスペースにドラッグ&ドロップしよう

2 プレイリストを作成

Save

聴きたい曲をドラッグ&ドロップしていき、順番などを決めたら、プレイリストを作成するために「Save」をクリックしよう

3 プレイリスト名を決定

Save

プレイリストの名前を入力したら「Save」をクリック。もちろん日本語もOKだ

BGMに もってこい

ネット環境さえあれば、さまざまなジャンルの楽曲を聴くことができるので、誕生日パーティーでのバースデーソングを即興でかけるなど、その場に応じた使い方ができるだろう。

共有すればブレストや雑談に使える

lino

URL ■ http://linoit.com/

「lino」はWeb上のキャンバスに付箋紙によるメモや画像を貼り付けることができるサービス。貼られたメモなどは自分で好きな位置に並べられるので、単なるメモ機能だけのサービスよりも整理しやすい。また、複数のユーザーを招待し、自分達だけのグループを作っておけば、ちょっとした雑談やアイデアの発表などにも使える。用途に応じて複数のキャンバスを使い分けることも可能だ。

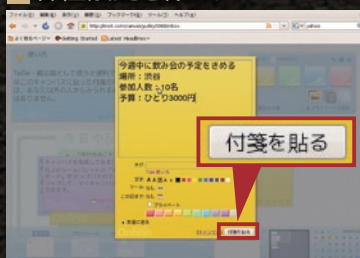
発想次第で使い方が広がる!

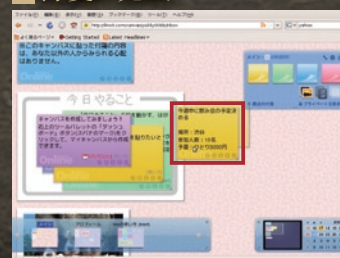
「キャンバスにメモを貼る」というシンプルな機能だからこそ、使い方次第でさまざまな用途に活用することができる。

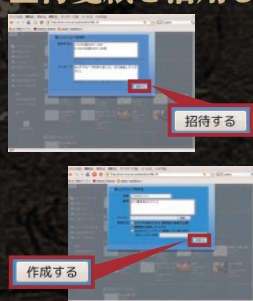
lino

1 新規メモを作成する

好きな色の付箋をダブルクリックすると、新規で付箋紙が作成される

2 各種設定を行なう

文字を入力し、文字の大きさや色などを決めたら「付箋を貼る」をクリックしよう

3 付箋が完成

作成した付箋がキャンバス上に保存される。ドラッグすることで位置を変えたり、各種設定などを変更することも可能だ

■付箋紙を活用してコミュニケーション

招待する

作成する

スパナマークをクリックし「グループを作る」から、友達などを招待することができる。メンバー同士で付箋を貼り合って、コミュニケーションをとろう

■プロフィールも作成可能

メイン画面の左下にある「プロフィール」では、画像などを使って自分のプロフィールページを作ることが可能。他のユーザーに公開して、新たなコミュニケーションをとることもできるぞ

気軽な雑談気分で

仲間内などでキャンバスを共有しておけば、気軽なやり取りに便利。自分の好きなタイミングで付箋を貼れて、自発的にはがすまで残っているので、チャットやメールほど急がない雑談などに最適。

スパム防止のメールアドレスを作成

tinymail.me

URL ■ http://tinymail.me/

Webサイトやブログの運営において、スパムメールを避けるために、改変アドレスを載せていたり、画像として貼り付けるなどの対策をとっている人は多い。そうしたスパム対策のひとつとして使えるのが「tinymail.me」だ。このサービスは入力したメールアドレスから、スパム防止のリンクを作成してくれる。メールを送りたい人は、作成されたリンクを辿っていくことでメールアドレスを入手できるというわけだ。

サイトやブログの運営に使える

本当のアドレスを表示するには、結構な手間がかかるので、どうしてもスパムを避けたい人にはオススメだ

スパム防止の一手段

メールアドレスを表示するには、リンクをクリックする、キーワードを入力する、という2段階の手順が必要となる。そのため、アドレスを自動的に探し出すような巡回プログラムは、ほぼ撃退できると思っていいだろう。

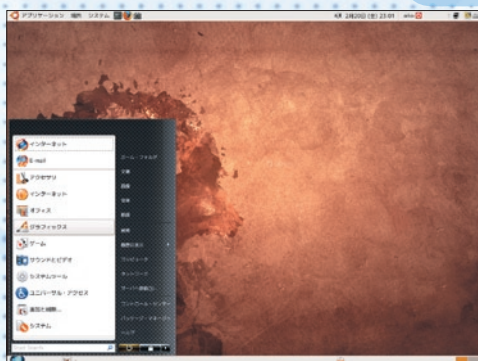
オープンソースフリーウェアTheBest!!

Linuxユーザー必見のスゴイソフトを大公開!

常に進化を続ける、オープンソースの超絶Linuxアプリケーション。その最先端を今、ここに公開する!

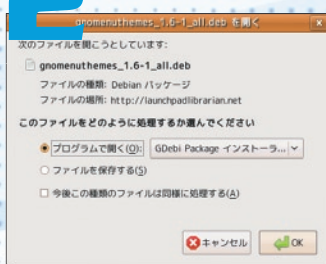
アプリケーションメニューをWindows Vista風に

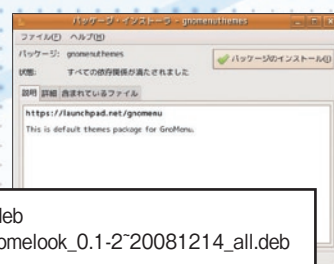
GnoMenu

視覚効果がオフでも動作する!

Ubuntuは、「Launchpad」というソフトウェア開発のためのWebアプリケーションおよびWebサイトで開発されている。このLaunchpadの中には、デスクトップを彩るためのツールを開発するプロジェクトがいくつもあるのだが、その中のひとつに「GnoMenu」がある。Gnomeデスクトップ環境向けのパネル・アプレットとして、Vista風のアプリケーションメニューを提供しているのだ。他にも同様のアプレットがあるが、こちらはUbuntuの視覚効果が無効の状態でも動作するのがウレシイ!

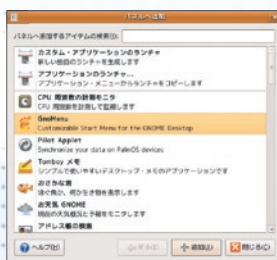
1 入手はプロジェクトページから

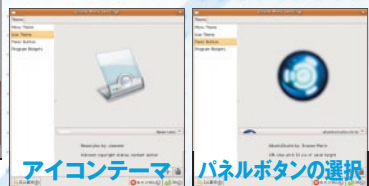
プロジェクトのページにある「SERIES AND MILESTONES」からたどって、ダウンロードおよびインストールできる

2 インストールの実行

原稿執筆時点でのバージョンは、1.6(開発コード:TRUNK)、下記の2つのDEB パッケージをダウンロード&インストールしよう

gnomenu_1.6-2_all.deb
gnomenu-themes-gnomelook_0.1-2~20081214_all.deb

3 パネルへの追加

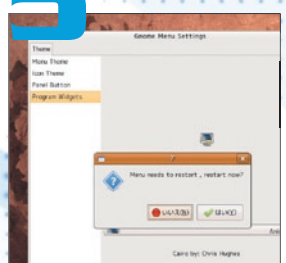
インストール終了後は、いったんログアウトが必要だ。再ログイン後にパネル上の空きスペースで右クリック

すると「パネルへ追加」をクリックして現れるパネル・アプレット一覧画面に、「GNOMENU」が追加されている

4 GnoMenuテーマの選択

メニューアイコン上で右クリックし、「Preferences…」でテーマなどを指定できる。パネルボタン・アイコンもワンクリックで変更可能だ

メニューテーマの選択

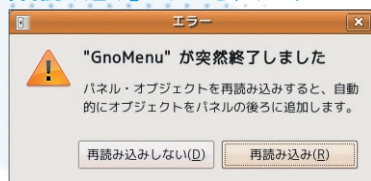
アイコンテーマ

パネルボタンの選択

5 GnoMenuテーマの更新

テーマを更新する

テーマ・メニューを選択して「OK」ボタンをクリックすると、GNOMENUの再起動を求められるので、「はい」をクリック

「再読み込み」ボタンをクリック

エラー
"GnoMenu" が突然終了しました
パネル・オブジェクトを再読み込みすると、自動的にオブジェクトをパネルの後ろに追加します。
再読み込みしない(D)　再読み込み(R)

エラーメッセージが現れるが、気にせず「再読み込み」をクリックすれば、テーマが変更される

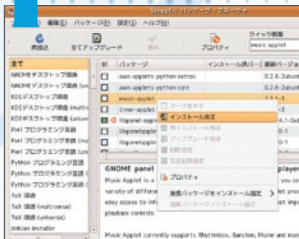
GNOMEのメニューを一新!

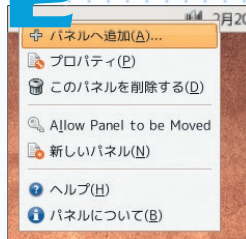
パネル上で音楽ファイルをコントロール

Music Applet

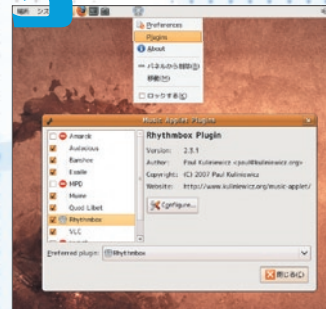
ウィンドウだらけのデスクトップでも音楽のコントロールができて便利!

「Music Applet」は、再生している音楽ファイルの曲名やアーティスト名などを、パネル上にコンパクトに表示することのできるアプレット。様々な音楽アプリケーションに対応しており、停止/再生、巻き戻し/早送りといったコントロール、再生時間の表示、さらには楽曲の評価も行える。デスクトップがウィンドウで埋め尽くされた状態であっても、パネル上から音楽ファイルの操作を素早く行えて便利だ。

1 インストール

Synapticパッケージマネージャで「Music-Applet」と検索して、ダウンロードおよびインストールしておこう

2 パネルへの追加

アプレットの追加は、パネルの空きスペース上で右クリックしてから行う

「パネルへ追加」で現れる画面で「Music Applet」を選び、「追加」をクリック

3 再生プレイヤーの変更

音楽プレイヤーを変更するときは、アプレット上で右クリックして「Plugins」を選択。「Preferred plugin:」のプルダウンメニューで切り替えられる

外部接続メディアの取り回しを便利に

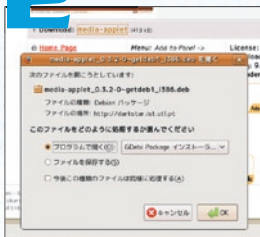
Media Applet

接続中のデバイスを一覧表示 取り外しも一元管理できる

「media-applet」は、外部接続メディアの取扱いがより便利になるアプレット。USBポート上などで接続されたハードディスクやUSBメモリ、光学ドライブなど、PCマウントされた各種外部接続メディアが、アプレットアイコンを左クリックすれば一覧表示されるのだ。WindowsXP以降に搭載されている「ハードウェアの安全な取り外し」機能のように、手軽にデバイスの取り外しが行えるぞ。

1 アプレットの入手

ダウンロードサイト(http://www.getdeb.net/app/media-applet)からDEBパッケージをダウンロード

2 パッケージのインストール

ダウンロードしたDEBパッケージをダブルクリックすると、「GDEBパッケージ・インストーラ」が表示される。ここで、画面の指示に従ってインストールを実行

3 アプレットの追加

パネルの空きスペース上で右クリック。「パネルへ追加」画面で「Media Applet」を選択すれば導入完了だ

デスクトップにシステム稼働状況を表示する

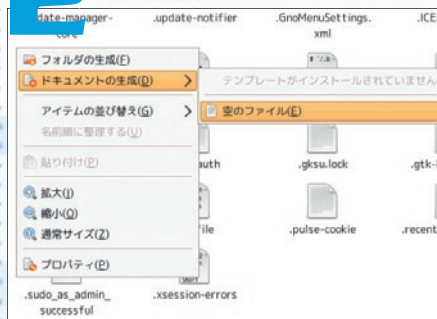
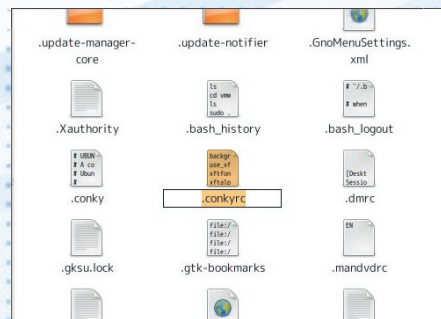
Conky

システムに負担をかけずにクールな演出効果を

システムの稼働状況は、端末からtop, ps, free, vmstat などのコマンドを用いて得ることができるが、常時デスクトップに表示しておくことができるアプリケーションが「conky」。表示内容は細かくカスタマイズできるようになっており、「.conkyrc」という”隠しファイル”に設定を書いて、自分のホームディレクトリ（/home/ログインアカウント）内に置いておくことで表示されるようになる。

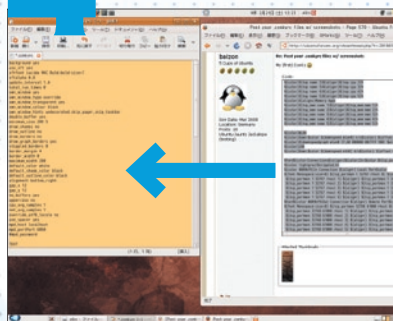
1 まずは下準備

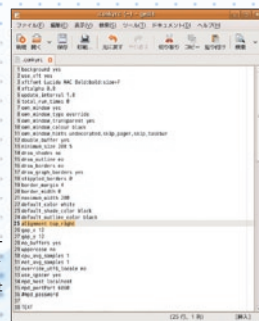
ファイルマネージャで「home」フォルダを開き、「表示」→「隠しファイルを表示する」にチェックを入れる

2 Conkyの設定ファイルを準備する

ファイルマネージャの空き部分で右クリックして、「ドキュメントの生成」から空のファイルを作成する

新規作成した空ファイルを、「.CONKYRC」という名前に変更しておく（ドットからはじまるファイル名）

3 スクリプトの入手

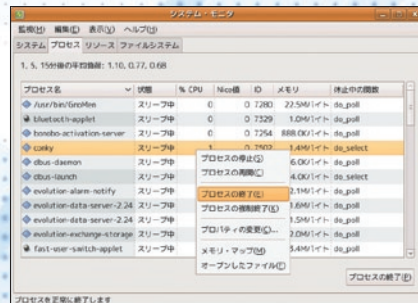
Conkyのスクリプトは多数公開されているので、ダウンロードしてみよう。Ubuntuフォーラムのスクリプトスレッドには画像ファイルも添付されており、プレビューができて便利

4 「.conkyrc」ファイルを完成

スクリプトをコピーしてきたら、手順2で作成した空のファイル「.conkyrc」をダブルクリックして開く。そこにスクリプトを貼り付けよう

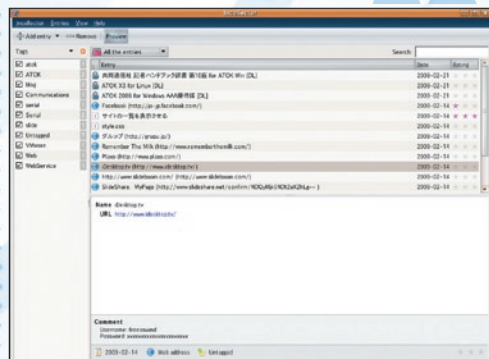
スクリプトを貼り付けたテキストファイルを、そのまま上書き保存する

5 自動起動の設定

「システム」＞「設定」＞「セッション」から、「自動起動するプログラム」タブの「追加」をクリック。表示された画面で名前＝「conky」、コマンド＝「conky &」とすれば、バックグラウンドジョブとして指定可能

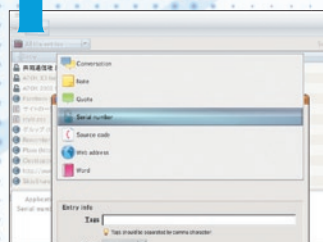
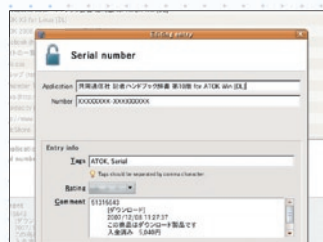
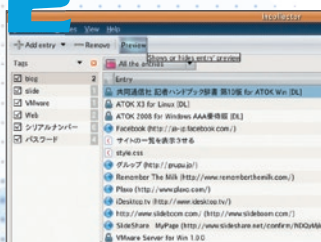
Conky起動！

Conkyの停止方法

Conky を停止する場合は「システム・モニタ」の「プロセス」タブで、リストにある「conky」を右クリック。「プロセスの終了」を選べばOKだ

大事な情報を一元管理する

Incollector

ウィンドウがたくさん開いていても音楽のコントロールができて便利!

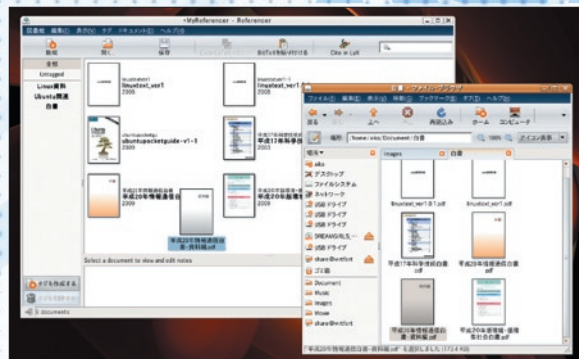
Webサービスを利用するのに必要なIDやパスワード、アプリケーションのシリアルナンバーのように大切な情報をファイルに保存しておいても、いざという時になかなか見つからないというのはよくあること。そういったデータの保管にUbuntu標準のメモソフト「Tomboy」を使う人もいるだろうが、ここはパスワード管理専用のアプリ「Incollector」がオススメだ。ダウンロードおよびインストールはGetDeb から行おう。インストール後は「アプリケーション」＞「アクセサリ」から起動することができる。

1 情報の追加

「ADD ENTRY」ボタンをクリックすると、シリアルナンバー、WEB アドレス、会話のメモ、引用、ソースコード、単語などの入力フォームがあらかじめ用意されている。入力時にタグを入れておくことで、検索/抽出がしやすくなるだろう

2 ビューの変更

「PREVIEW」ボタンをクリックすると3ペイン表示となり、各項目の内容をIncollector上で閲覧できるようになる

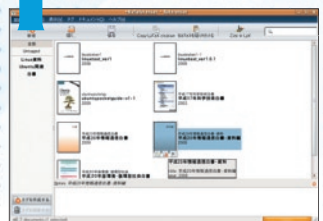
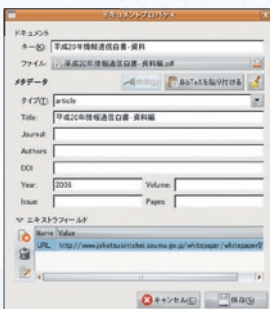
3 分類・検索機能もあり非常に便利

WEBから入手した資料自作のデータ、ソースコードなどを保管しておき、タグで分類や検索ができる簡易データベースになる

入手／作成した資料やコレクションのデータベースを作成

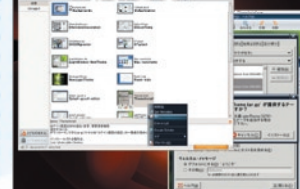
Referencer

簡易データベースとしても使える論文の引用文献管理用ソフト

「Referencer」とは「参考文献」の意味。論文を書く際には、多くの参考文献についてその出典を明確にする必要がある。引用元管理だけでも多くの労力を要するものだが、論文本体のバージョン管理も含めた手間を、大きく低減してくれるのがこのアプリ。論文作成に限らず、趣味のコレクション管理、仕事の情報管理などにおけるデータベースソフトとして、非常に便利なソフトだ。ドラッグ＆ドロップ操作にも対応しており、簡単にファイルを追加できる。

1 資料に関する情報の入力

資料ファイルにマウスを重ねると、詳細が表示される。この情報は、ファイルの下部中央に現れる小さな「プロパティ」アイコンをクリックすることで編集できる

既存の入力フィールド以外に、資料の入手先などの情報も追加するには「エキストラフィールド」を利用する

2 分類/検索を容易にするタグ

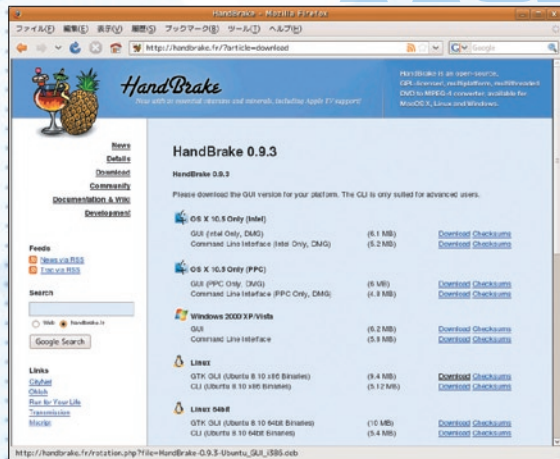
ソーシャルブックマークでお馴染みの「タグ」を、各ファイルに対して行える。文書の分類・検索効率が上がることだろう

3 画像の管理にも使える

Preferencerに画像や動画をドラッグ&ドロップすると、サムネイルが追加される。これをメタデータとして利用可能

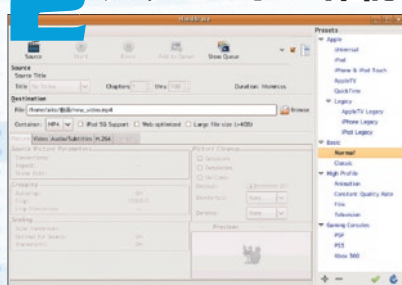
iPod/iPhone用の動画変換も簡単にできる

HandBrake

超便利! さまざまな動画形式がプリセット済み

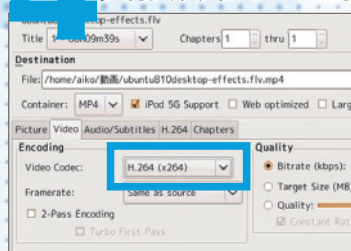
HandBrakeは、さまざまなファイル形式に対応した動画変換ツール。iPodやiPhone、PSP、PS3などに対応した動画形式に最適化された設定が、プリセットで用意されている。画面上のメニューは英語表記だが、GUIによるわかりやすい操作なので、直感的に動画変換が行えるだろう。アプリケーションの入手は、HandBrakeの公式ページ（http://handbrake.fr/?article=download）から行う。Ubuntuに対応したDeb形式のパッケージがダウンロード可能だ。

1 インストール

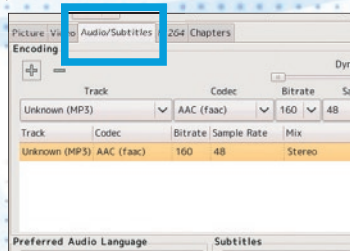
通常のUbuntuならGTK GUI（Ubuntu 8.10 X86 binaries）をダウンロード。実行してインストールを開始しよう

2 プリセットの確認

起動後、画面右上の「Presets」欄をクリックして開くと、あらかじめ用意された設定が確認できる

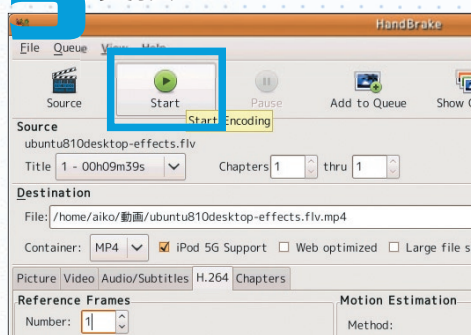
3 変換元ファイルの読み込み

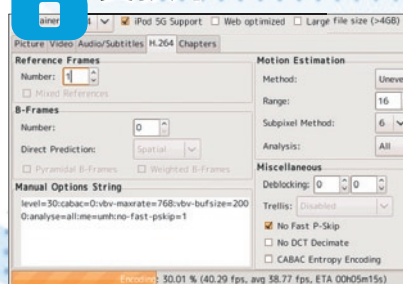
左上の「Source」ボタンをクリックして動画を読み込む。変換後の保存場所は「Destination」で指定

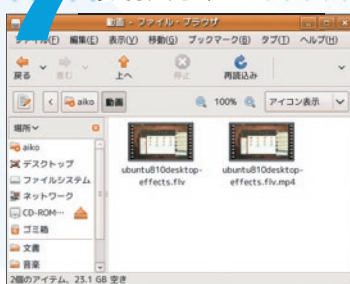
4 変換形式の選択

動画形式の選択

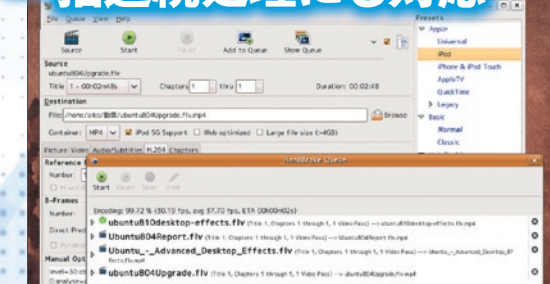
変換形式は、「Presets」で選択。お好みに設定したい場合には「BASIC」を選ぶ

音声形式の選択

音声変換形式を指定する場合は、「Audio/Subtitles」タブから細かく指定できる

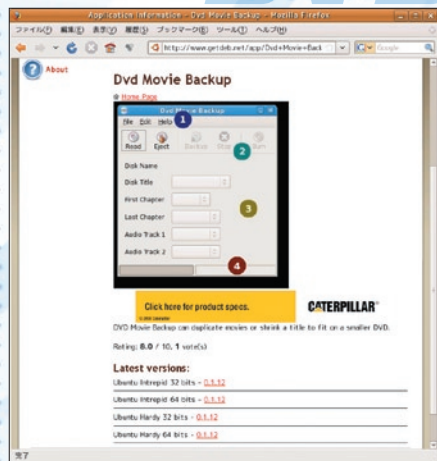
5 変換のスタート

指定をすべて終えたら、上部にある「START」ボタンをクリック。変換作業が開始される

6 変換中

変換作業の進行状況は、ウィンドウ最下部のステータスバーに表示される

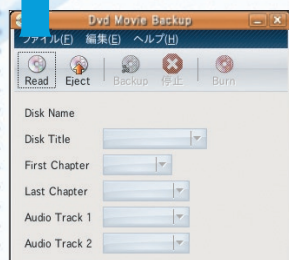
7 変換終了

特に指定していない場合には、変換元と同じディレクトリにファイルが保存される

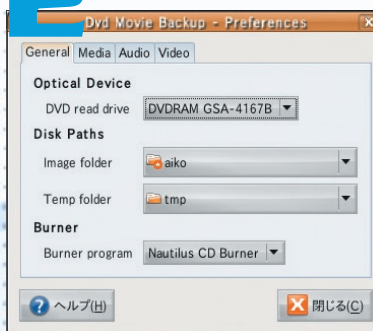
一括連続処理にも対応

「ADD TO QUEUE」ボタンをクリックしてから作業指示を追加していくと、変換作業を連続して処理させることも可能

超簡単にDVDディスクのバックアップが可能

DVD Movie Backup

片面2層のDVDから片面1層へのバックアップにも対応!

DVD Movie Backupは、DVDのバックアップを簡単に行えるツールだ。シンプルでコンパクトなインターフェースであるが、そこに詰め込まれた機能は充分すぎるほど。アプリケーションはgetdeb（http://www.getdeb.net/app/Dvd+Movie+Backup）から入手可能。

1 起動後の画面

「アプリケーション」メニューの「サウンドとビデオ」から起動すると、上のような画面が表示される

2 ISO保存の設定

「編集」→「設定」で初期設定を行う。「General」タブでイメージの保存場所を行う。「Burner」で書き込みソフトを選択

3 バックアップメディアの指定

「Media」タブでは、記録メディアの種類を選択する。片面1層のディスクに圧縮保存したいなら、「4.7GB Single Layer」を選択しよう。「Media Settings」にチェックがあれば、リージョンフリーでのDVDバックアップが可能だ

4 音声／言語の指定

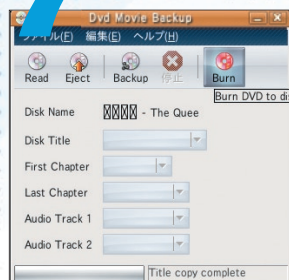
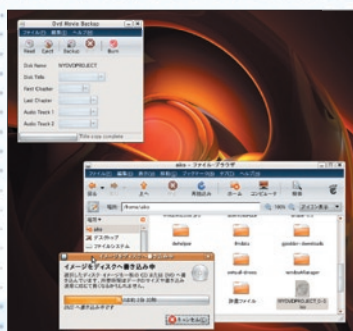
変換後の音声形式を指定。「AC3」を選んでおけば間違いないだろう

5 動画品質の指定

画質設定はそのままでOK。片面2層→1層に圧縮変換して画質が低下しそうな場合、変換前に知らせてくれる機能も

6 バックアップ開始!

変換元のディスクを挿入して「READ」ボタンをクリック。「BACKUP」ボタンをクリックすれば変換が開始される

7 焼き込みは手動で

「BURN」ボタンでの書き込み機能は現バージョンでは、うまく動作しない

別途ライティングソフトを起動し、空のDVD-Rへの焼き込みを行おう

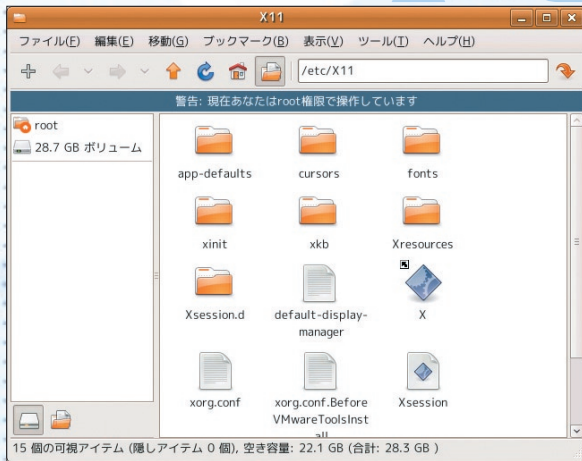
8 イメージファイルを残すか否かを選んで作業完了

書き込み完了したISOファイルを削除するか否かをたずねられる。「はい」を選べば削除となる。ISOを残しておきたいなら「いいえ」を選ぼう

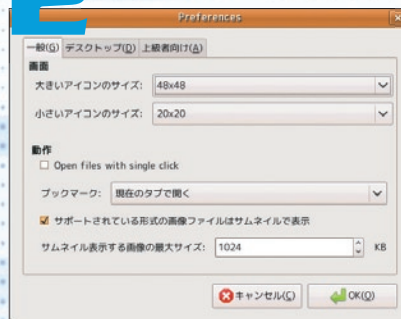
標準のファイルマネージャ「nautilus」が重いと思ったらコレ!

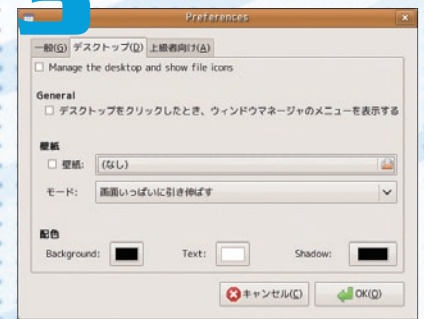
PCManFM

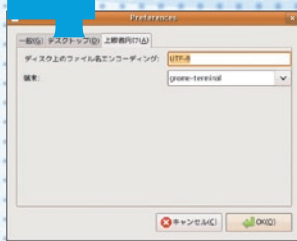
超軽快! ファイルマネージャ 管理者権限にも対応

GNOMEよりも軽いウィンドウマネージャとして人気を博し、「LXDE（90ページ）」にも採用されている軽快なファイルマネージャ。GNOME標準のファイルマネージャである「nautilus」にも匹敵する機能をもちながら、軽快で高速にファイルやディレクトリの操作が可能だ。特に古いマシンであればその差は歴然。インストールする場合は、Synapticパッケージマネージャで検索して導入しよう。

1 パネルに追加しておくと便利

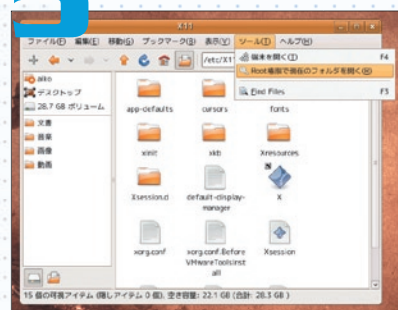
導入後「アプリケーション」＞「システムツール」に登録されるが、デスクトップやパネル内にショートカットを作成しておいて、すぐに起動できるようにしておくと便利だ

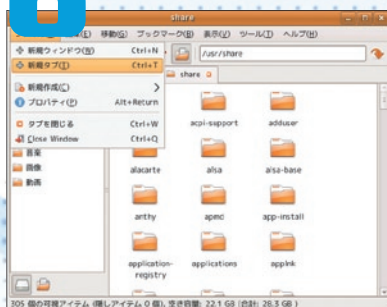
2 一般設定

「編集」＞「設定」で設定画面が表示される。「一般」タブではアイコンのサイズなどが設定可能だ

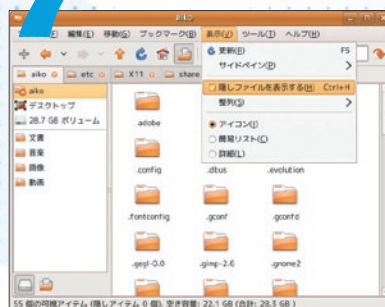
3 デスクトップ設定

背景の壁紙、配色などの設定は、「デスクトップ」タブから変更することができる

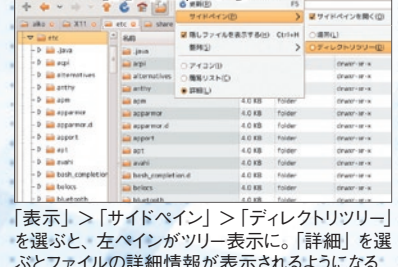
4 端末の登録で一発起動!

ファイル名の文字エンコーディングは、「上級者向け」タブで設定できる

このタブで端末を登録しておくと、「ツール」メニューから即座に端末を起動できるため、とても便利

5 管理者権限での操作

「ツール」メニューから「root権限で現在のフォルダを開く」を選ぶと、管理者権限での操作が簡単に行える

6 タブ表示にも対応

NAUTILUS最新版と同様、ウィンドウのタブ表示機能を搭載している

7 隠しファイルの表示

隠しファイルや隠しフォルダ（ファイル名の頭にピリオドが付いている）の表示・非表示は「表示」から指定

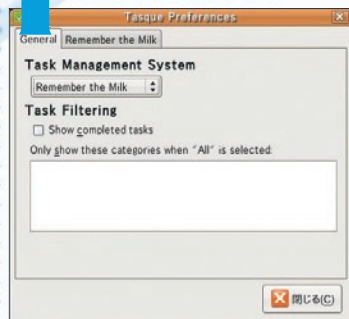
8 ツリー表示と詳細表示

「表示」＞「サイドペイン」＞「ディレクトリツリー」を選ぶと、左ペインがツリー表示に。「詳細」を選ぶとファイルの詳細情報が表示されるようになる

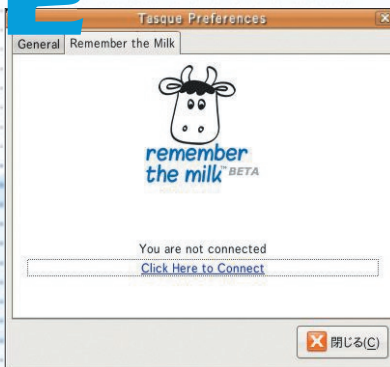
LinuxでのToDo管理ならコレで決まり！

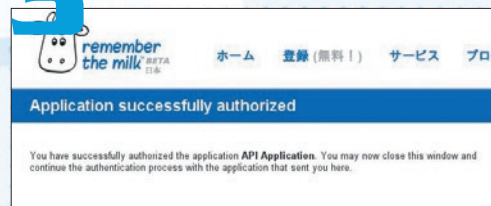
Tasque

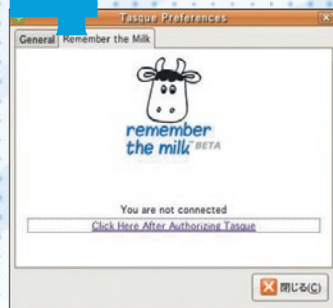
Remember the Milkとの連携が便利！

Tasqueは、シンプルながら大変便利なToDo管理ツールだ。このツール単体でも充分便利に利用することができるが、さらに便利なのが、メーラー「Evolution」やタスク管理用のWebアプリ「RTM」（=Remember The Milk。iPhoneやiGoogleにも対応した管理ツール）との連携ができるということ。RTM のアカウントをもっていない場合、http://www.rememberthemilk.com/ から無料登録しておこう。なお、インストールはGetDeb（http://www.getdeb.net/app/Tasque）から行うこと。

1 初期設定

起動直後の初期画面で、「Remember the Milk」タブを選択しよう

2 RTMへアクセス

RTMにアクセスするため、画面中央の「Click Here to Connect」をクリックする

3 認証成功

WEBブラウザが開いたらRTMにログインしよう（事前にユーザー登録しておくこと）。画面のように「認証が成功しました」という内容の英文が表示される

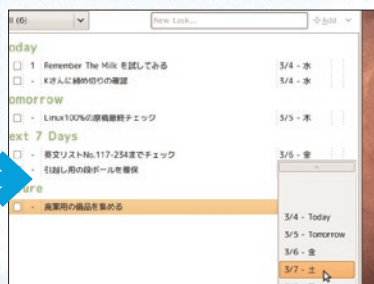
4 もう一度アクセス

続けて、今度は画面中央の「Click Here After Authorizing Tasque」をクリックする

5 ログインアカウントが現れたら成功

RTMに登録した自分のログインアカウントが表示されたら、アクセス完了

6 RTMのToDoリストが表示される

すでにRTMユーザーであれば、利用中のToDoリストがTasque上に表示される

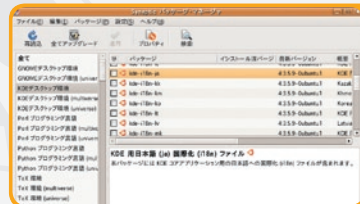
Tasque上でToDoリストを登録する場合は、ウィンドウ右上の入力欄からスケジュールを登録

登録した項目をクリックすると、日時設定やメモの追加を行うことも可能だ

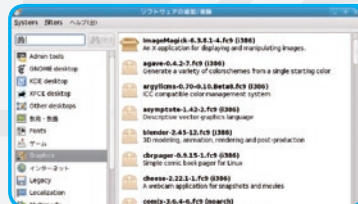
iGoogleガジェットとの連携でToDo管理を一元化

iGoogleのRTMガジェットと併用すれば、RTM環境がさらにパワーアップ！ いつでもどこでもTo Do管理を一元化できて、これは便利!!

お役立ち基本ソフトを一挙に紹介！

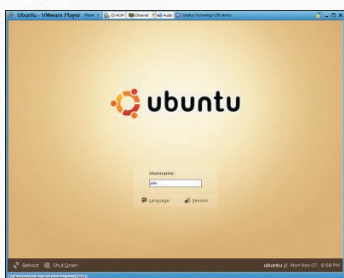
定番Linuxフリーソフト ウラオモテ

Linuxのオススメ定番ソフトをセレクトしてご紹介！気になるソフトはどんどん導入しよう

Ubuntuでのインストール

「アプリケーション」メニューから「追加と削除」を選択し、表示されたら、検索欄にソフト名を入力。任意のソフトをダブルクリックし「変更の適用」ボタンをクリック。確認のダイアログが表示後、「有効」ボタンをクリック

Fedoraでのインストール

「システム」メニューから「管理」→「ソフトウェアの追加と削除」を選択してPackage Kitを起動。キーワード検索もしくはジャンル分けされたソフト一覧から、目的のソフトを探してインストールしよう

仮想化マシンソフト VMware Player

フリーで使える仮想化ソフト。有料の製品版と違い、ハードウェア設定等の複雑な設定が必要ない。簡単にインストールできるので初心者向けの仮想化ソフトといえる。

LinuxとWindowsに対応

「VMware player」は、LinuxとWindowsに対応している。ホストOSをLinux、ゲストOSをWindowsにする事はもちろん、その逆も実現が可能だ。普段はWindowsを使い、勉強用としてLinux仮想マシンを用意しておくと良いかも。

Windows上にUbuntu仮想マシンを導入した例。1台のPCでふたつのOSをいっぺんに使えるのはじつに便利

Ubuntuをゲストにする場合は……

Ubuntuをゲストにする場合は、VMware Player用のOSイメージファイルを使うのが便利。イメージファイルはUbuntu Japanese TeamのWebサイト（http://www.ubuntulinux.jp/download/）から入手できる。

仮想マシンの構築はGUI操作で簡単。初心者でも迷う事なく設定できるだろう

インストール方法：パッケージ
ライセンス：プロプライエタリ
公式サイト：http://www.vmware.com/jp/

タブブラウザ flock

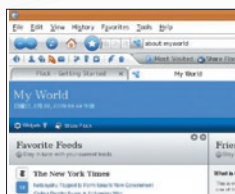
ソーシャルネットワークの機能やYoutube、Flickr、Picasa等の動画・画像共有サイトのコンテンツを搭載した新世代ブラウザ。Firefoxがベースとなっている。

多機能なソーシャルブラウザ

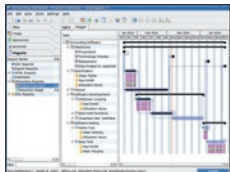
「flock」の大きな特徴は、単にWebをブラウジングするだけでは無く、diggなどのSNSやYoutube、Flickrなどの動画・画像共有サイト、Gmail、Yahoo MailなどのWebメール、ブログ投稿機能などを便利に使うための、多数の機能やコンテンツを備えている点だ。

画像共有サイト「Flickr」をflockで閲覧した場合の例。画像の閲覧やコメントの追加も簡単

マルチOSに対応

flockのカーネル部分はFirefoxがベースとなっているため、Windows、Mac OS、Linuxに対応している。OSに依存する事なく使える高機能Webブラウザなので、今後更にflockの利用者が増加していくだろう。

カスタマイズを行うことで、自分だけのオリジナルflockを作る事もできる

インストール方法：ソースからコンパイル
ライセンス：GPL、MPL/GPL/LGPL
公式サイト：http://www.flock.com/

プロジェクト管理ツール TaskJuggler

各プロジェクト毎にスケジュールが視覚的に確認できるので把握がしやすい

テキストベースで作成するプロジェクト管理ツール。タスクのスケジュールはガントチャートやHTMLで出力される。TaskJuggler専用のスクリプトを用いる必要があるが、テキストエディタでスケジュール表を作る事ができるので、ほとんどマウスの操作を必要としない。

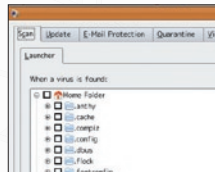
インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://www.taskjuggler.org/

テキストエディタ TEA

非常に軽量で扱いやすいうえ、PHPやPerlなどの形式にも対応している

文字列の加工や文字数の確認、ハイライト表示など多機能なテキストエディタ。特筆すべきはHTMLに対する機能の豊富さで、ブラウザでの確認やタグの入力支援がデフォルトで搭載されている。HTMLのタグを直接手で打ち込んでWebページを編集する場合などに役立つソフトだ。

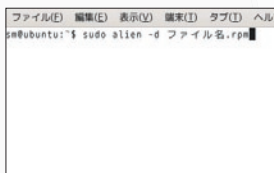
インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://tea-editor.sourceforge.net/

ウィルススキャンソフト KlamAV

KlamAVの操作性は、製品版のウィルス検索ソフトとほとんど変わらない

CUI操作でウィルスチェックを行う「ClamAV」のGUI版。ウィルスの駆除やパターンファイルの更新などが全てマウスで行える。スキャンを行う時間を設定しておき、指定時間になるとスキャンが始まるスケジュール機能も搭載。その完成度は、製品版のウィルス検索ソフトをも凌駕するほど!?

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/LGPL
公式サイト：http://klamav.sourceforge.net/

パッケージ変換ツール alien

NO ICON

RPM形式のファイルをDEB形式に変換。操作は端末上で行う

Red Hat Linux系（Fedoraなど）のパッケージ形式であるRPM形式を、Debian系（Ubuntuなど）のDEBパッケージに変換するツール。変換作業は全てコマンドライン（端末）で行うが、引数にRPMファイル名を与えるだけで良いので、CUIに慣れていない人でも簡単に変換できる。

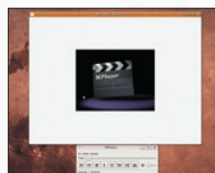
インストール方法：パッケージ
ライセンス：－
公式サイト：http://kitenet.net/~joey/code/alien/

CD/DVDライティングソフト Brasero

日本語に対応しているBrasero。音楽CDやDVDの書き込みもマウスで簡単に行える

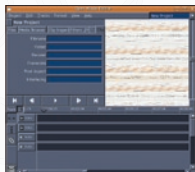
Gnome標準のCD/DVDライティングソフト。データの丸ごとコピー、音楽CDの作成やDVDの作成はもちろん、ISOイメージからメディアを作成する事もできる。メディアの作成のみならず、バックアップツールとしても使える所が魅力的。操作のほとんどがマウスで行える事も特徴的だ。

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://www.gnome.org/projects/brasero

動画再生ソフト MPlayer

MPlayerはコマンドから操作するものと、GUIで操作を行うものがある

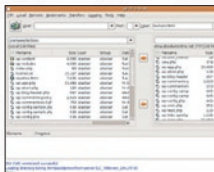
動画再生プレイヤーである「MPlayer」は、数多くの動画再生形式に対応している。動画を保存する事も可能で、「MEncoder」と呼ばれる独自のエンコーダーにより様々なフォーマットへのエンコードが行える。Linux版のほか、WindowsやMac版も公開されている。

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://www.mplayerhq.hu/

ビデオ編集ソフト Open Movie Editor

設計がシンプルな分できる事は限られているが、非常に扱いやすい編集ツール

「Open Movie Editor」は初心者向けのビデオ編集ソフトだ。動画をトラックに読み込み、時間軸に沿って動画を切ったり貼ったりといった加工が行える。動画の作成段階でエフェクトの調整もできるので、オリジナルの動画を作るのに十分な機能を備えている。

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://www.openmovieeditor.org/

FPTクライアント gFTP

FTPサーバからファイルのダウンロードやアップロードを、軽快に行える

Linux対応のFTPクライアントソフト。ファイルのアップロードやダウンロードはwgetコマンドやftpコマンドでも実行できるが、コマンドラインでの操作に慣れていないとなかなか難しい。このソフトなら同様の操作が、マウスで手軽に行えるのだ。SSH、FSPなどのサーバにも対応している。

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://gftp.seul.org/

メッセンジャー Pidgin

MSNメッセンジャーとの互換性があるので、Windowsユーザとのチャットも楽しめる

「Pidgin」はLinuxで扱えるメッセンジャーのひとつで、元々「Gaim」という名前だった。MSNやYahooメッセンジャーなどにも対応しているのでOSに依存しないIMとして使う事ができる。特筆すべき点は、プラグインを導入することで「Twitter」も利用できるというところだ。

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://www.pidgin.im/index.php

サイトダウンローダー

HTTrack WebSite Copier

Webサイトのコンテンツをローカルのハードディスクに取り込むソフト。オフライン環境で特定のサイトを閲覧したい場合などに役立つソフトといえるだろう。

サイトをPC上に保存

お気に入りのWebサイトをハードディスク上に丸ごと保存できるダウンローダー。ダウンロードしたい画像などが大量にあるサイトで、ひとつひとつファイルを落とすのはやはり面倒。このツールで欲しいファイルを一括保存すれば、ラクにファイル収集が行えるのだ。

サイト別にカテゴリ分けや基準となるパスの変更も可能だ

サイトの取込みは全自動

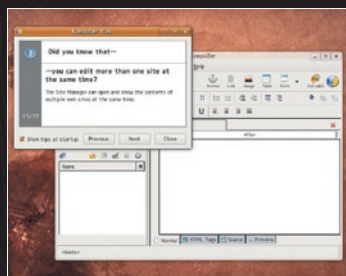
HTTrack WebSite Copierの特徴のひとつとして、複雑な設定が必要ない事が挙げられる。Webブラウザからウィザード形式で設定し、最後のURLを入力するだけで取り込みが行われる。ローカル内のリンク（コンテンツのリンク）も自動で行われるので、あとはただ待つだけだ。

複数のURLを入力し、一括ダウンロードすることもできる

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://www.httrack.com/

HTMLエディタ

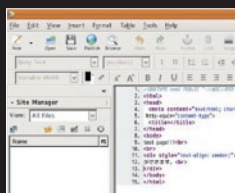
KompoZer

Microsoft Wordで文書を作るような操作感で、手軽にWebページが作成できるソフト。HTMLに関する知識が無くてもホームページを作る事ができるのだ。

簡単にホームページ作成

ホームページを作る際はHTML（Hyper Text Markup Language）という言語の知識が必要だが、KompoZerを使えば、ワープロ感覚でWebサイトを作成できる。ユーザーはHTMLを意識しなくてもWebページが作れるのだ。もちろん、HTMLソースを確認しながら作成することも可能。

単純にテキストを打ち込むだけでWebページを作る事ができる

サイトの構造が一目瞭然

ホームページ作成ソフトの製品版と同様、作成したWebページのHTMLソースビューやブラウザプレビュー機能を備えているため、上で紹介したHTTrack WebSite Copierと組み合わせると、欲しいデータの本体ファイルが存在するURLを調べたりすることもできる。

タブ式でビュー機能を備えているので、HTMLソースをその都度確認ができる

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://kompozer.net/

IEエミュレータ

IEs4Linux

Windows専用のWebブラウザ「Internet Explorer」をLinux上で使う事ができるソフト。IEに慣れ親しんでいるLinuxユーザにとっては嬉しいソフトだ。

Linux上でIEを動かそう

IEs4Linuxは、Internet Explorer 5.0、5.5、6.0をLinux上で使う事ができる。Ubuntuを含むLinuxでは標準WebブラウザとしてFirefoxが使われているが、「やっぱりLinuxでも使い慣れたIEを使いたい！」という人は、このIEs4Linuxを使うと良いだろう。

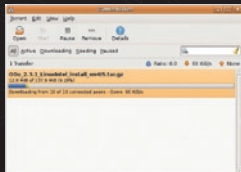
設定は非常に簡単。IEのバージョンとAdobe Flashプラグインの有無、リンクアイコンの表示場所にチェックを入れてOKを押すだけ

使うにはWineが必要

IEs4Linuxを使う場合は、Linux上でWindowsをエミュレートするためのプログラム「Wine」が必要だ。Wineは公式サイト（http://winehq.org/）から入手できる。残念ながら最新のInternet Explorer 7.0にはまだ対応していないようだが、今後のバージョンアップに期待しよう。

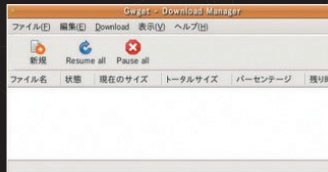
設定を行いOKボタンを押すと、IEのインストールが始まる

インストール方法：パッケージ
ライセンス：ー
公式サイト：http://www.tatanka.com.br/ies4linux/page/Main_Page

BitTorrentクライアント Transmission

数多く存在するBitTorrentクライアントソフトのひとつ。シンプルな設計が特徴

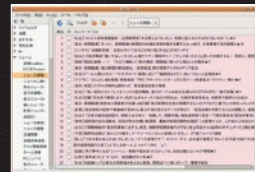
P2Pソフトとして有名なBitTorrentのクライアントソフト。torrentファイルは自動的に読み込まれるので、ファイルの送受信を行いたい場合はTransmissionを起動するだけでいい。ポートや速度制限などの設定もGUIで簡単に行える。

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/GPL、MIT
公式サイト：http://www.transmissionbt.com/

ダウンローダー Gwget

ファイルのダウンロード状況は専用ウィンドウに詳細表示される

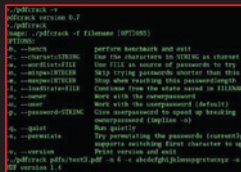
Gwgetは、WebサーバやFTPサーバ上にあるファイルのURLを指定し、ダウンロードを行うツール。Linuxコマンドの「wget」と違うところは、大量のファイルを一括ダウンロードできる点だ。ダウンロードしたデータの破損がないかチェックする機能も備わっている。

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://www.gnome.org/projects/gwget

2ちゃんねるビューワ おちゅ～しゃ

ブラウザ形式でスレが表示される。気になる記事のチェックもできるぞ

Linux上で動作する2chビューワのひとつである「おちゅ～しゃ」。タブ式のブラウジングとなっており、スレ内にある画像URLのリンク先がポップアップ形式で表示されるので非常に見やすい。よく見るスレはマイフォルダに登録しておくこともできるぞ。

インストール方法：ソースファイル
ライセンス：BSD/LGPLv2
公式サイト：http://ochusha.sourceforge.jp/

PDFパスワード解析ツール PDFCrack

操作はCUIがメイン。パスワードを忘れてしまった場合に便利

PDFファイルに設定されたパスワードを解析するツール。解析は総当たり（ブルートフォース）で行われるため、時間さえかければどんなパスワードも解析できる。設定したパスワードを忘れてしまった場合や、パスワードの強度を確認したい時に使おう。当たり前ではあるが、悪用は厳禁だ。

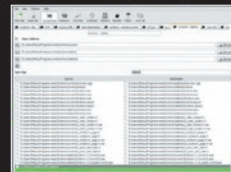
インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://pdfcrack.sourceforge.net/

イベント管理ツール incron

「incrontab」のコマンドに「-t」の引数を与えるとイベントの一覧が確認できる

「incron」は、ファイルの変更をトリガーとしてユーザ指定のイベントを発生させるツールだ。似たようなツールに「cron」があるが、こちらは時間指定が行える。例えば重要なファイルをincronで監視しておき、変更が加えられるとアラートメールを飛ばすなどの設定もできるのだ。

インストール方法：パッケージ
ライセンス：－
公式サイト：http://inotify.aiken.cz/

ファイル同期ソフト Synkron

ファイルの同期は、複数のユーザがひとつのファイルを編集する場合に必ず必要となる

ディレクトリの同期を行うツール「Synkron」。マルチOSに対応し、日本語化もされている。フィルタリング機能が備わっているので、ディレクトリ内の任意のファイルを同期対象外とする事もでき、バックアップやファイルのバージョン管理としても利用価値のあるソフトだ。

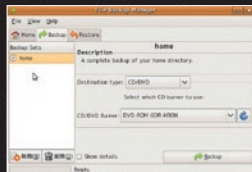
インストール方法：ソースファイル
ライセンス：GPLv2
公式サイト：http://synkron.sourceforge.net/

PC監視ツール Nagios

監視対象のサーバが現状どのような状況になっているのか一目瞭然

Nagiosは、サーバ及びネットワークの監視が自由自在に設定できるソフトだ。プロセス監視やリソース監視（CPU使用率、diskしきい値など）、ネットワーク監視機能などが設定でき、リモート監視ではSSH、SSLが使われるため、セキュリティ面でも安心できる。

インストール方法：ソースファイル
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://www.nagios.org/

バックアップソフト Pybackpack

バックアップ&リストアがGUI操作で行えるので初心者でも扱いやすい

ホームディレクトリ下の全てのファイルをCDやDVDに書き込み、バックアップを行うためのソフト。バックアップルールも任意に設定でき、メディアからのリストアも簡単に行うことができる。ホームディレクトリ下であれば、保存対象のファイルも変更する事が可能だ。

インストール方法：パッケージ
ライセンス：－
公式サイト：http://andrewprice.me.uk/projects/pybackpack/

ファミコンエミュレータ GFCEU

Gnomeフロントエンドのファミコンエミュレータ。Linuxでは定番といわれているぞ

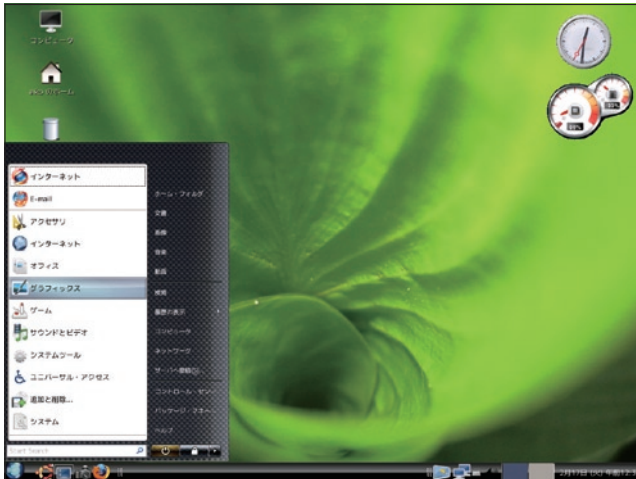
Ubuntu上で動作するファミコンエミュレーター。ゲームパッドやチートコードにも対応している。動作が軽い為、ロースペックのマシン上でも軽快に遊ぶ事ができる。ファミコンカセットの位置づけとなるROMイメージを作るには、別途イメージ吸い上げの機械を準備する必要がある。

インストール方法：パッケージ
ライセンス：GNU/GPL
公式サイト：http://dietschnitzel.com/gfceu/

定番Linuxをオリジナル仕様にモデルチェンジ!

Ubuntuカスタマイズ はじめの一歩

Linuxというosは、極めてカスタマイズ性に優れたOSである。デスクトップ環境やウィンドウ管理マネージャなどの設定を、徹底的に改造してみよう！

Gnomeデスクトップを WindowsやKDE風にカスタマイズする

Gnome環境のままでも Ubuntuの外観は激変できる！

一見KDEに見えるこのデスクトップ、実はGnomeデスクトップをアレンジしたもの。通常は上下に2本存在する「パネル」を下の1本に集約して、Windowsのような画面にしたのだ。Linuxは、ネットで配布される「テーマ」によってデスクトップの雰囲気をガラリと変えられる。やり方次第でWindowsやMacそっくりにすることも可能だ。ここで紹介する手順通りに行えば、コマンドなどを用いなくても、簡単にUbuntuをカスタマイズできてしまうぞ！　見た目や操作性の向上を図るためにも、使いやすい環境を手に入れるためにも、ここで紹介する方法をぜひ習得して欲しい！

■カスタマイズの手順

❶パネルのカスタマイズ

操作性を高めるには、サイズやアプレットの配置がキモとなる

❷テーマのカスタマイズ

「テーマ」を導入すれば、見た目を大きく変えることが可能だ

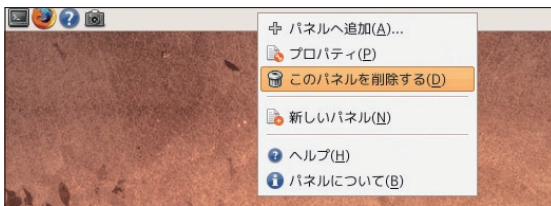
❸ログイン&スプラッシュのカスタマイズ

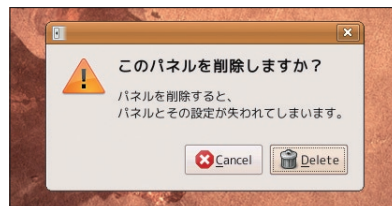
ログイン時に表示されるテーマやスプラッシュも、テーマファイルをネット上から入手して変更することができる

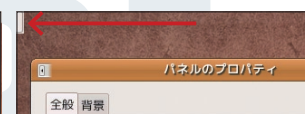
1 パネルをWindows風にカスタマイズ

Gnome では標準で上下 2 本のパネルを、Windows のタスクバーのように 1 本に集約してみよう。ここで行うのは、機能をどちらか 1 本に集約する作業と、そして不要なパネルを画面から消す作業の 2 点だ。

1 上部パネルを削除

パネルへ追加(A)...
プロパティ(P)
このパネルを削除する(D)
新しいパネル(N)
ヘルプ(H)
パネルについて(B)

上部パネルの空きスペースで右クリック。「このパネルを削除する」を選んで、画面から消してしまう

このパネルを削除しますか？
パネルを削除すると、パネルとその設定が失われてしまいます。
Cancel
Delete

アラートが出るので「Delete」をクリック

パネルを削除せずに「隠す」方法もある

パネルのプロパティ
全般　背景

パネル上で右クリックして「プロパティ」を選び、「全般」タブで「隠すボタンを表示する」をチェックすると、パネルの両端に小さなボタンが現れ、表示/非表示の切り替えができる

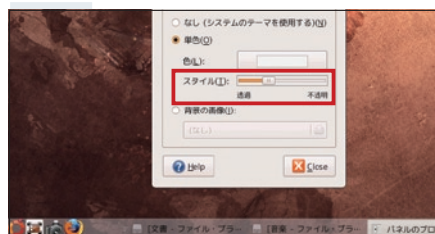
削除したパネルを復活させたい場合

パネルへ追加(A)...
プロパティ(P)
このパネルを削除する(D)
新しいパネル(N)
ヘルプ(H)
パネルについて(B)

パネルの「プロパティ」で「新しいパネル」を選ぶと、まっさらなパネルが現れる。次ページで紹介する手順に従いパネルアプレットを追加していけば、新たにパネルを復元できる

2パネルのサイズ（厚み）の変更

パネルの「プロパティ」を開き、「全般」タブにある「サイズ」の数値を変更すれば、パネルの厚みを変更できる

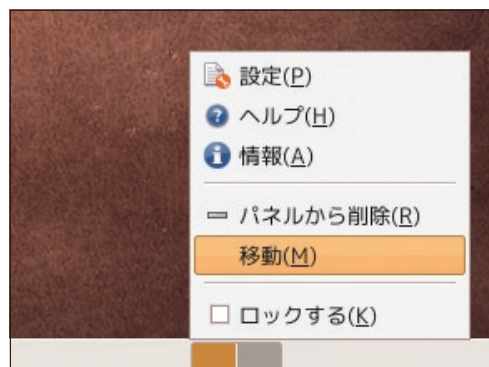
パネルの背景に特殊効果を加えることも可能

配色を指定してスタイルの透過率を調整すると、左画像のようにパネルを半透明化することも可能

3パネルアプレットの追加

下部パネルで右クリックして「パネルへ追加」を選択すると、パネルアプレットの一覧が表示される。ここで、好みの機能を選んで追加していこう。削除した上部パネルの機能を補完しておくとよい。「メインメニュー」「ログアウト」「音量調節ツール」「時計」「通知スペース」などがおすすめだ

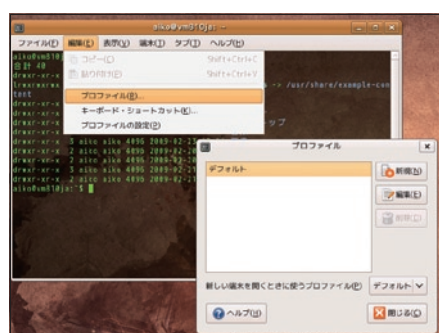
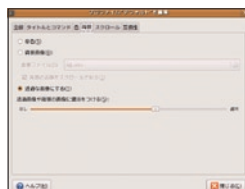
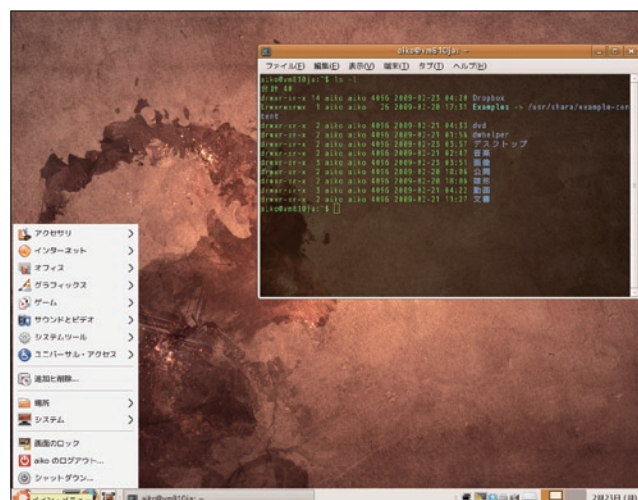
4パネルへランチャを追加

アプリケーションのアイコンをパネル上に追加するには、まずメインメニューからアプリケーションを選び、アイコン上で右クリック。ここで「このランチャをパネルへ追加」を選べばOK！

5パネルアプレットの移動

パネルアプレットを移動して、レイアウトを調整しよう。パネルアプレット上で右クリックして「移動」を選び、マウスをドラッグすると、アプレットが左右に動く。配置したい場所で再度アプレットをクリックすれば、アプレットが固定されるぞ

6パネルアプレットのロック

自由に動かせないアプレットがあったら、右クリックして「ロックする」のチェックを解除して移動させよう。逆に、配置を固定したい場合は「ロックする」にチェックを入れておく

7端末のカスタマイズ

ついでに、端末の表示設定もカスタマイズしてしまおう。設定は「編集」>「プロファイル」で行える。「編集」をクリックして「全般」タブではフォントの指定、サイズの変更ができる

「色」タブでは背景色、表示される文字の色の指定を、「背景」タブで透明度の設定や背景画像の指定などを行える

パネルと端末のカスタマイズ完了！

2 デスクトップのカスタマイズ

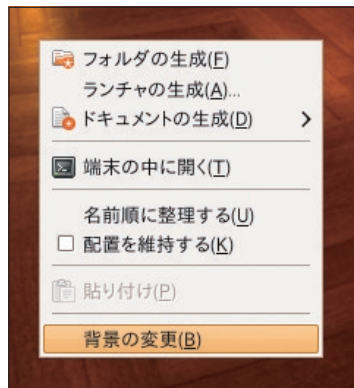
OS カスタマイズの定番といえば、壁紙やウィンドウテーマのカスタマイズが挙げられる。Ubuntuでもこれらは手軽に変更することが可能だ。Web 上で公開されている魅力的な壁紙やデスクトップテーマを入手したら、以下の手順に従って導入してみよう。それだけでも、Ubuntu の印象が劇的に変化するはずだ。

1 壁紙/テーマの入手

デスクトップの背景と、ウィンドウやパネルのテーマを変えれば、見映えは激変する。Gnome対応のテーマや壁紙は、GNOME-Look.org（http://gnome- look.org/）やGNOME Art（http://art.gnome.org/）といったサイトから入手可能

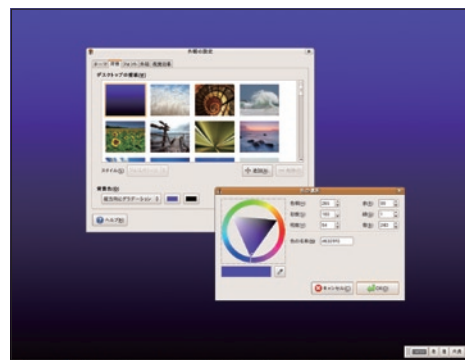
Googleイメージ検索で入手

裏技としては、Googleのイメージ検索を使う方法もある。「検索対象：」を「特大」にして、たとえば「wallpaper win 7」で検索をかけると、たくさんの壁紙が入手できるぞ

2 背景（壁紙）の変更

デスクトップの空いている場所で右クリック。メニューから「背景の変更」を選ぶと、「外観の設定」画面が現れる

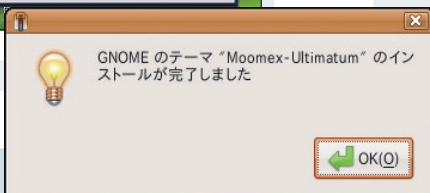
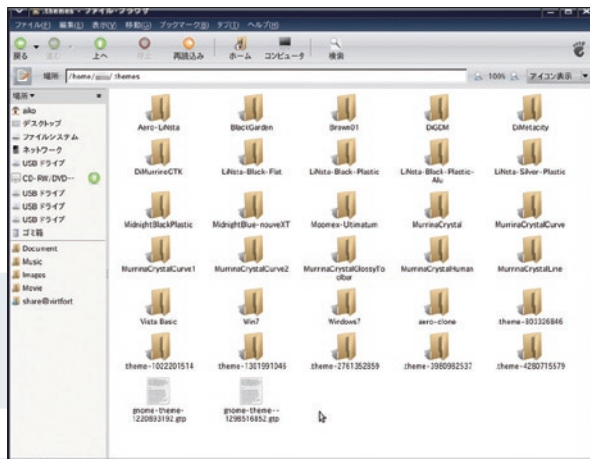
3 新しい壁紙を適用する

入手した壁紙データを有効にするには、「追加」をクリックして、現われるファイル選択画面で壁紙ファイルの置き場所を指定する

背景色を変更、グラデーションにしてみる

メモリ節約のため壁紙を使いたくない場合は、背景に単色画面を選ぼう。「背景色」をグラデーションにすることも可能

4 テーマの追加

ここでは例として、GNOME-Look.orgから検索したGTK 2.xテーマ、「Midnight BluePlastic」を使う。また、アイコンには「nuoveXT」というファイルをダウンロードした。どちらもtar.gz形式のまま、外観の設定画面の「テーマ」タブ上にドラッグ＆ドロップで登録できる

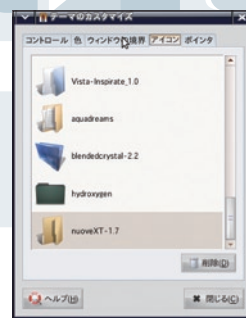
完了の表示が出たら成功だ。メモリの空き状況などによってうまくいかない場合はやり直そう。一覧に「midnightBlackPlastic」と追加されたサムネイルをクリックすれば、即座に外観が変わる

テーマファイルはどこに格納される?

導入したテーマファイルは、「/home/（ログインアカウント）/.themes」内に置かれる。アイコンは「/home/ログインアカウント/.icons」に格納される

4 テーマのカスタマイズ

コントロール

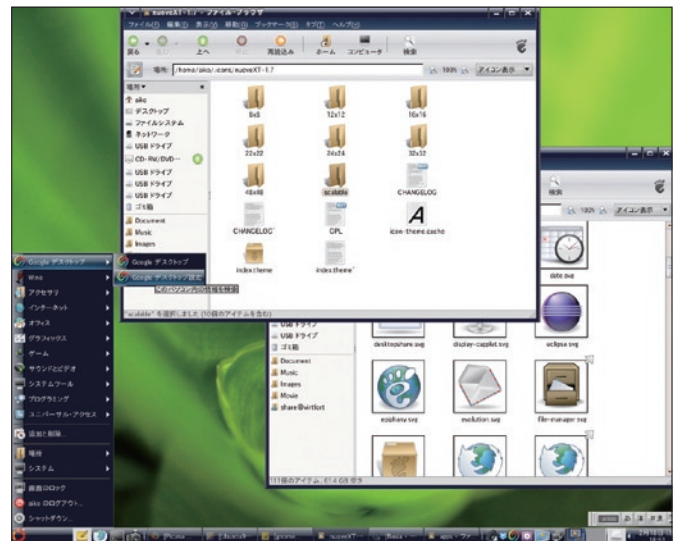
テーマの設定を細かくカスタマイズしていこう。「外観の設定」画面で「カスタマイズ」をクリック。次に「コントロール」タブでリストを次々とクリックしてみると、パネルバーやウィンドウ内の状態が変わっていく

ウィンドウ

「ウィンドウの境界」タブでは、ウィンドウの外枠のデザインを変更することができる

アイコン

「アイコン」タブでは、「/home/（ログインアカウント）/.icons」フォルダに正しくインストールされたアイコンが表示される。先ほど導入した「nuoveXT」も、ここで選択できる。マウスポインタについても同様に、好みのものを選択しよう

5 テーマの保存

すべて選び終えたら「別名で保存」を選んで設定を保存しておこう。「背景も一緒に保存する」をチェックしておくと、お気に入りのテーマがワンクリックで切り替え可能になる

デスクトップ全体のテーマ変更完了!

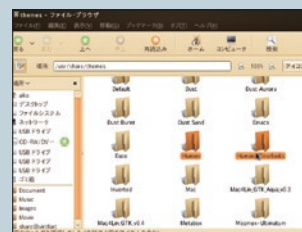
■デスクトップ·カスタマイズに関する疑問を一気に解消!

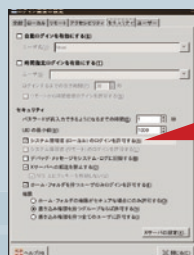
カスタマイズ作業では OS の設定を変更することになるため、普段 Ubuntu を使っているときには気づかなかったようなトラブルや疑問がわいてくるはず。そこでこのコーナーでは、デスクトップ・カスタマイズの過程でよくある疑問や気になるポイントをピックアップして、それぞれに対する答えを解説しよう。これを読めば、Ubuntu カスタマイズのコツがもっとよくわかる、かも!?

●「?」がついたテーマは?

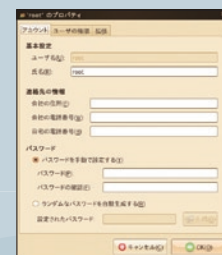
テーマの組み合わせを保存したのに、サムネイルが「?」になるのは、テーマに含まれるデータが移動や削除により欠落したため。別名保存すれば、欠落データ以外は再利用できる

●削除不可能なテーマがある

不要なテーマは左下の「削除」ボタンで消せるが、「/usr/share/themes」や、「/usr/share/icons」に置かれたユーザ共用テーマは削除できない

ユーザ共用ディレクトリにお気に入りのテーマやアイコンを格納しておけば（root権限が必要）、うっかり削除してしまうこともない

●root権限でログインして作業を行えるようにする

UID の最小値(M): 1000
システム管理者 (ローカル) のログインを許可する(A)
システム管理者 (リモート) のログインを許可する(L)
デバッグ・メッセージをシステム・ログに記録する(B)

「システム」>「システム管理」>「ログイン画面」を開き、「セキュリティ」タブを開いて、「システム管理者（ローカル）のログインを許可する」をチェック

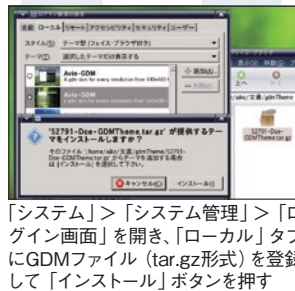
続いて「システム管理」>「ユーザとグループ」でロックを解除後、rootの「プロパティ」をクリック

「アカウント」タブの「パスワードを手動で設定する」欄で、root用のパスワードを設定。ここでrootアカウントで先ほどのパスワードを使ってログインすれば、管理者権限を持つrootとして作業を行えるようになる

3 ログインテーマのカスタマイズ

GDM とは、Gnome Display Manager の略であり、Ubuntu のログイン処理を担うプログラムである。標準のログイン画面に飽きてもっと別のテーマを導入したい場合は、GNOME-Look.org で新しい GDM データを入手することが可能だ。

1 GDMテーマの入手

配布サイトにアクセスしたら、ウィンドウ左部のメニューから「GDM Themes」をクリック。気に入ったテーマが見つかったら、ハードディスク上にダウンロードしておこう

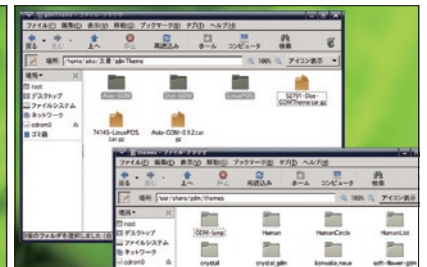
2 GDMテーマの追加

「システム」>「システム管理」>「ログイン画面」を開き、「ローカル」タブにGDMファイル（tar.gz形式）を登録して「インストール」ボタンを押す

GDMテーマが保管される場所

導入されたGDMテーマは、「/usr/share/gdm/theme」ディレクトリに保管される

3 GDMテーマの選択と適用

リストから好みのGDMテーマを選択したら、一度ログアウトして、変更がきちんと反映されているか確認しておこう

4 GDMテーマの管理

不要なテーマは、マウスで選択して「削除」ボタンをクリック。現れた画面で「テーマの削除」ボタンをクリックすることで削除できる

4 スプラッシュ画像のカスタマイズ

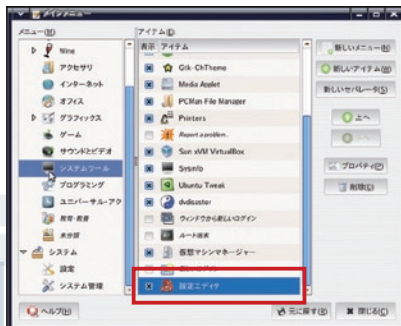
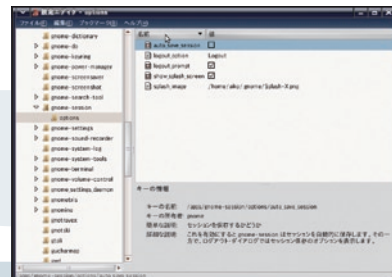
Splash とは、Gnome デスクトップのログイン準備中に表示される画像データのこと。ここでは 3 通りの設定方法を紹介しよう。なお、Splash 画像は PNG 形式で、ログイン時に表示可能な解像度に合わせた画像サイズにしておく必要がある。Web で配布される画像は、最低解像度である 640x480 ピクセルで作成されているものが多い。

A「Splash Screen」で管理する方法

Synapticパッケージマネージャから、「gnome-splashscreen-manager」と検索してインストールを行う。このツールの起動は「システム」>「設定」>「Splash Screen」から。ウィンドウ下部の「Show splash screen on startup」にチェックを入れる事で、ログイン画像として登録できる。なお、「Install」ボタンでPNG形式の画像を指定して、「Activate」ボタンを押そう。リストのファイル名に「Activated」という表示が現れたらその画像が有効となる

B「Ubuntu Tweak」で指定する方法

「アプリケーション」>「システムツール」>「Ubuntu Tweak」で起動。「スタートアップ」タブを選択して画像部分をクリックして、Splash画像を選択。「Show splash screen」にチェックを入れれば有効となる

C「設定エディタ」による変更

設定エディタはメニューに非表示なので、まず「システム」→「設定」→「メインメニュー」で、メニューに登録する

設定エディタは、Ubuntuのシステムを改造できる強力なツール。「splash_image」から画像を登録する

GDM&Splash変更完了!

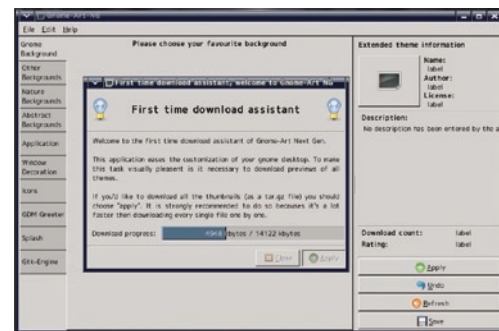
「Gnome-Art Next Gen」を用いればもっと簡単！

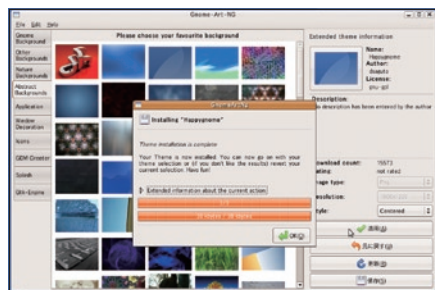
デスクトップを3分でMacスタイルに変えられる!?

「Gnome-Art Next Gen」は、素材配布サイト「GNOME Art（http://art.gnome.org/）」との連携ツール。ブラウザでサイトにアクセスすることなく、デスクトップ・テーマのプレビューやダウンロードができる、便利なカスタマイズツールなのだ。GNOME-Look.orgに比べると素材の種類は少ないとはいえ、クリックするだけでデスクトップを劇的に変えられるのはとても便利。なお、このツールを使うにはインターネットへの接続環境が必須となる。

1「Gnome-Art Next Gen」の入手

プロジェクト公式サイトのダウンロードページ（http://developer.berlios.de/projects/gnomeartng/）を開こう。「Packages」を選ぶと、「deb」形式のパッケージをダウンロードできる。保存したdebファイルをダブルクリックしてインストールする

2「Gnome-Art Next Gen」の起動

起動は「アプリケーション」>「システムツール」から。素材のサムネイルをダウンロードするのに少々時間がかかる

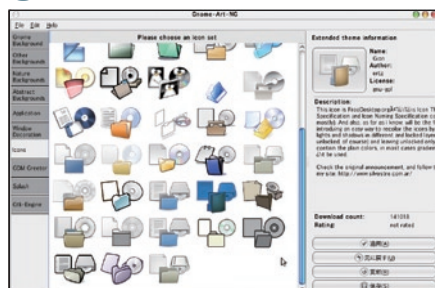
3背景の変更・追加

壁紙は「Abstract Bacckgrouds」タブで探す。「適用」を押すと画像がダウンロードされ、壁紙に設定される

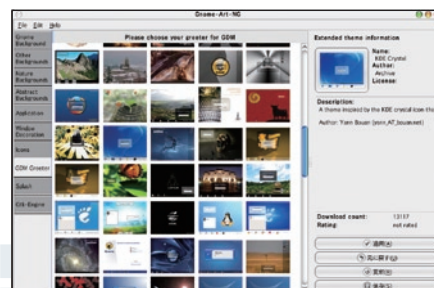
4「Application」の変更・追加

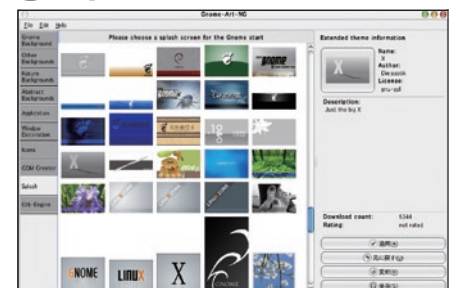
ウィンドウテーマを探すなら「Application」で。ボタンやスクロールバーなどのデザインを自由に選択できる

5「Window Decoration」の変更・追加

ウィンドウの外枠デザインは「Window Decoration」で変更可能。WindowsXPやMac風のデザインもある

6「アイコン・テーマ」

アイコン変更時は、「外観の設定」画面の「テーマ」タブから「カスタマイズ」>「アイコン」で設定を適用させる

7「GDM Greeter」の変更・追加

Ubuntuのログイン画面を探すなら、「GDM Greeter」を開こう。なお、GDMの設定変更にはパスワードが必要

8「Splash」の変更・追加

Gnome-Art Next Genを使えば、Splash画面の検索と変更も、手軽に行える。お気に入りの1枚を探そう

ディスプレイ環境を変えるだけ!!
異次元のデスクトップが君の物に!!

Ubuntu デスクトップマスター!!

DESKTOPMASTER

Ubuntuデスクトップが自在に変化!!

GNOME などの「デスクトップ環境」は、複数のデスクトップ用システムの組み合わせと統合化により成り立っている。主に、ウインドウを管理する「ウインドウマネージャ」、デスクトップやファイルを管理する「ファイルマネージャ」、メインメニューやランチャーのベースとなる「パネル」、そしてパネル用の各種機能となる「アプレット」などの組み合わせによりデスクトップ環境は構成されているのだ。

GNOME の場合は Metacity ウインドウマネージャ、Nautilus ファイルマネージャ、GNOME パネルなどが目に見える部分を構成している。それらのシステムは単独で利用可能なので、独自に組み合わせたデスクトップ環境を利用することも可能だ !!

DESKTOP MASTER I 簡単に導入可能!! 代表的なデスクトップ環境

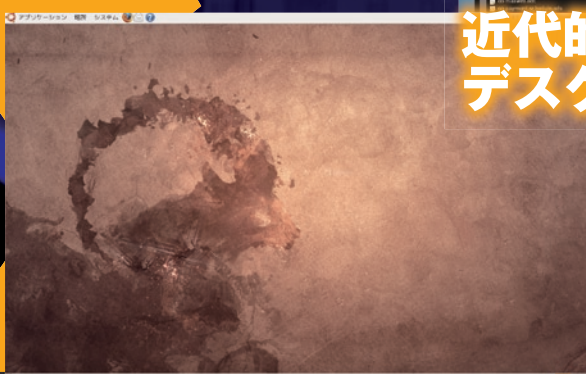
Ubuntuはもちろんのこと、Linuxではデスクトップ環境は固定されていないので、ユーザーは好みのデスクトップ環境を自分で導入して利用することができる。見た目や使い勝手の好み、動作パフォーマンスなどから、自分に合ったデスクトップを選ぼう。今回は、Ubuntuユーザー向けにKDE、Xfce、LXDEを紹介。

KDE

GNOME と人気をわけるモダンデスクトップ環境。Ubuntu のフレーバーである Kubuntu の標準デスクトップ環境だ

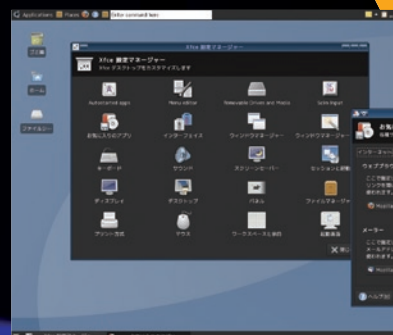
近代的なモダン・デスクトップ環境

GNOME

多くのディストリビューションで採用されているモダンデスクトップ環境。Ubuntu の標準デスクトップ環境

Xfce

軽量だが多機能なデスクトップ環境。Xubuntu で標準搭載されている

LXDE

後発の軽量デスクトップ環境。シンプルながら必要十分な機能を備えている

動作パフォーマンスの良好な軽量デスクトップ環境

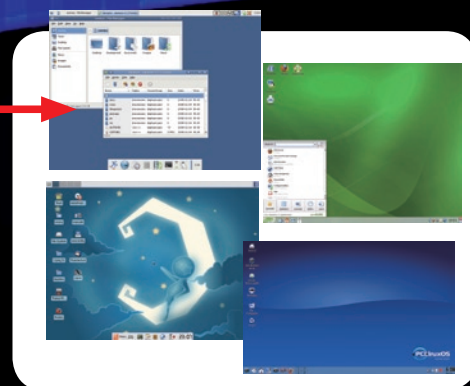
DESKTOP MASTER II Xウインドウ・システムが可能にするデスクトップ環境の変更

「Xウインドウ・システム」とはディスプレイへのビットマップ描画やキーボード・マウスを制御するシステムで、Ubuntuのオペレーティング・システムの中核部分とデスクトップ環境との間に存在している。

このXウインドウ・システムは「X」や「X11」とも呼ばれ、多くのディストリビューションで「X.Org」というXウインドウ・システムが採用されているのだ。

●Linuxデスクトップの構造

各種デスクトップ環境はXウインドウ・システムの上で実行・表示されており、オペレーティング・システムと直接結合していないので、ユーザーはKDEやXfceなど好みのデスクトップ環境を選ぶことができる。

Desktop Environments
X Window System
Operating System Kernel

DESKTOP MASTER III デスクトップ環境導入後はディスプレイ・マネージャで自由に変更!!

複数のデスクトップ環境が導入されたUbuntuで使用する環境を変更するには、ログイン機能を提供している「ディスプレイ・マネージャ」で、利用するデスクトップ環境を選択してログインしよう。

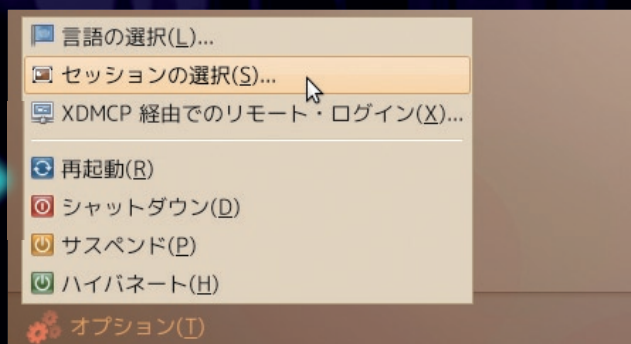
なお、各種デスクトップ環境はオペレーティングシステム起動後のセッションで管理されているので、わざわざPC自体を再起動することなく、切り替えて使うことが可能だ。

1 ログオン画面左下に注目

ubuntu

Ubuntuのログイン画面。デスクトップ環境の選択はこの画面左下から可能だ

2 メニューを展開する

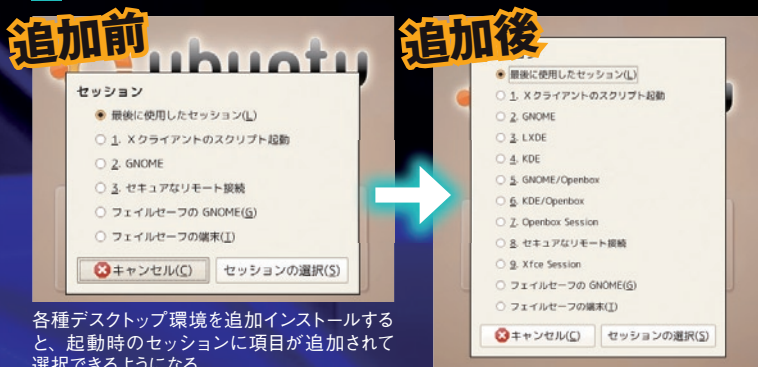
言語の選択(L)...
セッションの選択(S)...
XDMCP 経由でのリモート・ログイン(X)...
再起動(R)
シャットダウン(D)
サスペンド(P)
ハイバネート(H)
オプション(T)

画面左下の「オプション」から「セッションの選択」を選び、利用するデスクトップ環境を選択する

3 セッションから使用する環境を選択

追加前

セッション
最後に使用したセッション(L)
1. Xクライアントのスクリプト起動
2. GNOME
3. セキュアなリモート接続
フェイルセーフの GNOME(G)
フェイルセーフの端末(T)
キャンセル(C) セッションの選択(S)

追加後

最後に使用したセッション(L)
1. Xクライアントのスクリプト起動
2. GNOME
3. LXDE
4. KDE
5. GNOME/Openbox
6. KDE/Openbox
7. Openbox Session
8. セキュアなリモート接続
9. Xfce Session
フェイルセーフの GNOME(G)
フェイルセーフの端末(T)
キャンセル(C) セッションの選択(S)

各種デスクトップ環境を追加インストールすると、起動時のセッションに項目が追加されて選択できるようになる

4 毎回使う場合はこの設定

ubuntu

次回から KDE をデフォルトのセッションにしますか?
このセッションに対して KDE を選択していますが、デフォルト設定では Xクライアントのスクリプト起動 です。
このセッションだけ(I) キャンセル(C) デフォルトにする(D)
ユーザ username は 30秒 でログインします

デスクトップ環境を選択してログインしようとすると、選択したデスクトップ環境を標準のデスクトップ環境にするかどうか選択が促される。標準に戻すには「デフォルトにする」を選択しよう

追加手順は次ページから!!

KDE

KDE Point

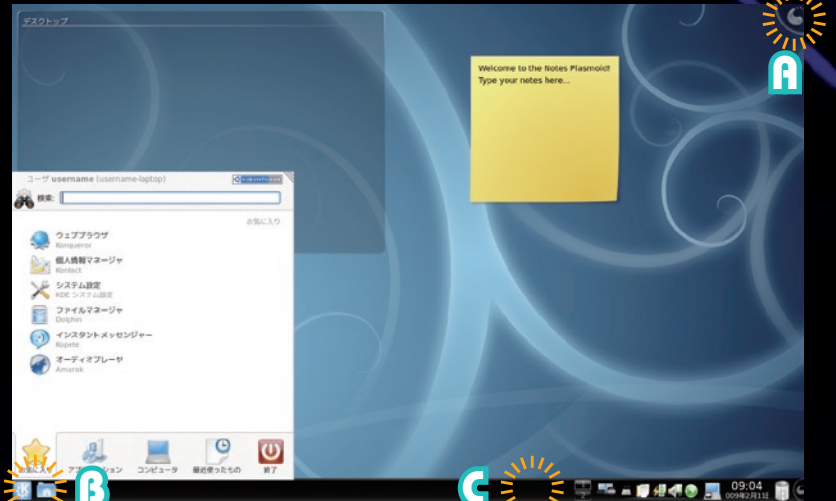
高機能アプリケーションとウィジェットシステムを標準搭載!!

K Desktop Environment 完成度の高いモダン・デスクトップ環境

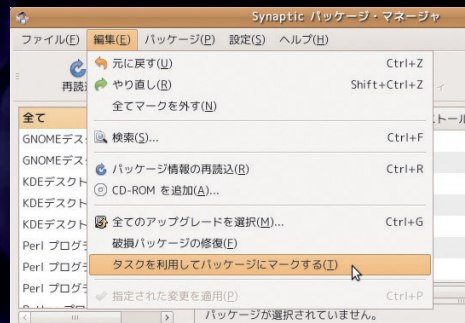
KDE（K Desktop Environment）はGnomeと人気をわけるLinuxのモダン・デスクトップ環境だ。WebブラウザのKonquerorや音楽管理ソフトのAmarokなどの高機能なKDEアプリケーションが標準搭載されている。また、KDEにはPlasmaというデスクトップ・ウィジェットシステムが標準で備わっており、デスクトップのパネルにもウィジェットが利用されているぞ。

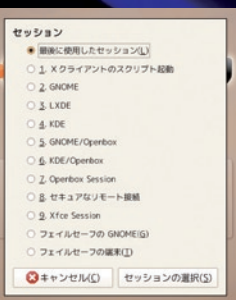
KDE搭載ディストリ

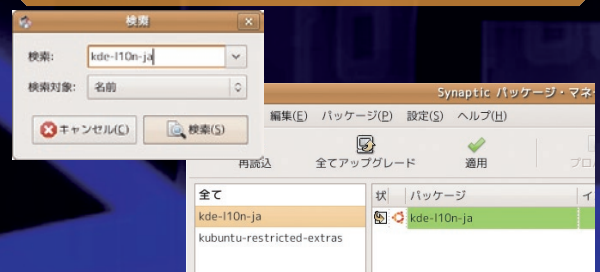
OpenSUSE

Mandriva

KDEの導入手順

UbuntuにはKDEを採用した「Kubuntu」というフレーバーが存在する。UbuntuにKDEを導入するにはSynapticパッケージマネージャからKubuntuデスクトップのパッケージグループをインストールすることで簡単に導入できるぞ。

1 Synapticのタスクを利用

Synapticパッケージマネージャの「編集」→「タスクを利用してパッケージにマークする」から「Kubuntu desktop」にチェックを付けて、KDEのパッケージグループをインストールしよう

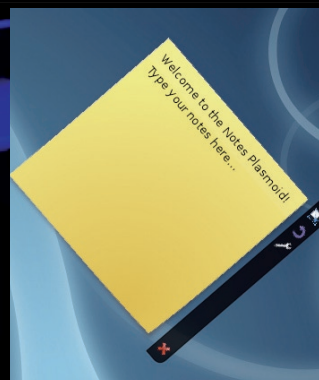
2 ディスプレイ・マネージャの選択

KDEパッケージのインストール中に標準で利用するディスプレイマネージャの選択が促される。ここでは、KDEに含まれるKDMが選択可能だ。インストール後はログアウトして、ログインオプションの「セッションの選択」から「KDE」を選択してログインしよう

併せてインストール

KDEと併せてインストールをオススメするパッケージは、KDEの日本語言語ファイルを提供する「kde-l10n-ja」パッケージと、各種マルチメディアプログラム一式を提供する「kubuntu-restricted-extras」パッケージだ。是非インストールしておこう

A Plasmaデスクトップウィジェット

「Plasma」というデスクトップ・ウィジェットシステムが備わっている。Plasmaの各種ウィジェットはPlasmoidと呼ばれ、情報の表示や通知、各種機能へのアクセスを提供するウィジェットを利用できる。

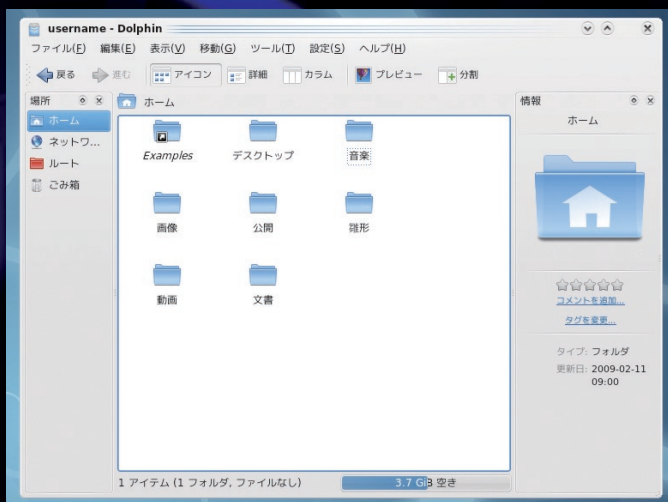
デスクトップ画面右上のボタンをクリックすると、デスクトップに「ウィジェット」を追加可能だ。有用なウィジェットがあらかじめ多数用意されている

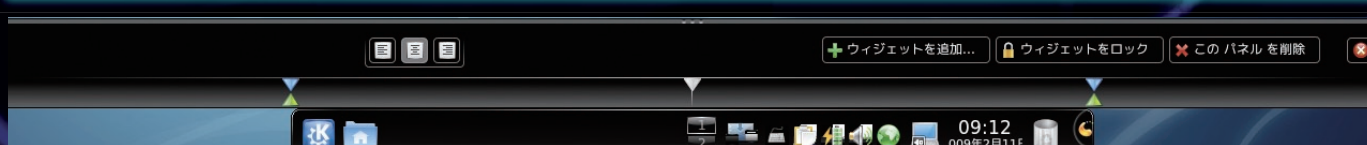
ユーザーがウィジェットを追加することも可能だ。KDEのウィジェットシステムはMac OS Xのダッシュボードと一部互換性があるので、シンプルなウィジェットならKDEでも利用できる

デスクトップに追加したウィジェットにマウスカーソルを合わせると編集バーが表示され、ウィジェットの大きさや角度を変更することができる

B メニューとファイルマネージャ

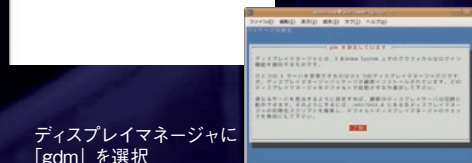
KDEのメインメニューはデスクトップ・パネル左端のロゴアイコンをクリックして表示できる。メインメニューはタブでグループ化されており、マウスカーソルを当てるとスムースにスライドする。

ログアウトや再起動はメインメニューの「終了」タブから行える

標準のファイルマネージャには多機能な「Dolphin」が採用されている。Dolphinはコマンド・ライン端末の統合やウインドウの分割表示や、カラム表示をサポートしている

C デスクトップ・パネル

デスクトップ・パネル右端のボタンをクリックするとパネルを設定できる。KDEではメインメニューやワークスペース切り替えなど、パネル上の各種機能にもウィジェットが利用されている。「ウィジェットを追加」からパネルにウィジェットを追加可能だ。

ディスプレイ・マネージャの再設定

KDEのインストール時にディスプレイマネージャをKDMに変更したが「元のGDMに戻したい」という場合は、コマンド・ライン端末で「sudo dpkg-reconfigure gdm」を実行するとディスプレイマネージャを再設定できる。

コマンド・ライン端末で「sudo dpkg-reconfigure gdm」と入力

ディスプレイマネージャに「gdm」を選択

Xfce

Xfce Point

多機能な環境を保ちながら少ないメモリで快適に動作!!

非常に軽量ながら機能性は十分 普通に使えるデスクトップ環境

「Xfce」はGNOMEに近い見た目と機能を提供しながらも、処理能力の低いPCでも快適な動作パフォーマンスを実現するよう設計されたデスクトップ環境だ。

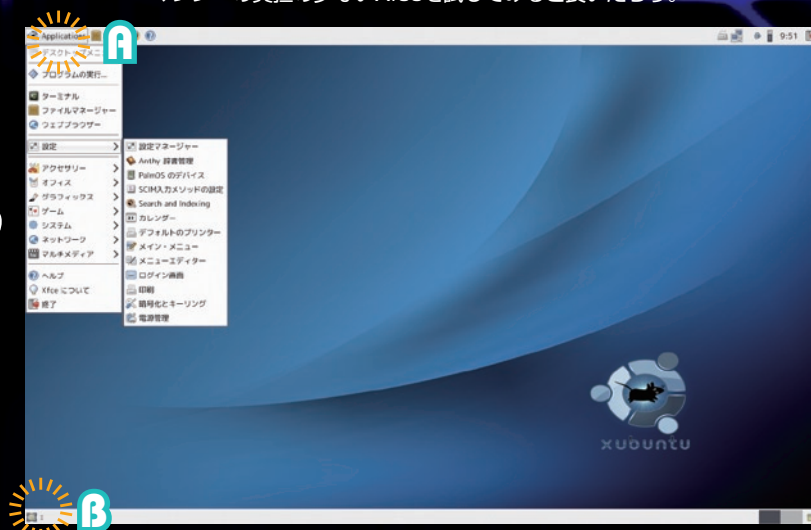
多少古いパソコンなど、Ubuntu標準のGNOMEデスクトップでは快適な動作パフォーマンスを得られない場合は、メモリ消費量が少なく、マシンへの負担の少ないXfceを試してみると良いだろう。

Xfce搭載ディストリ

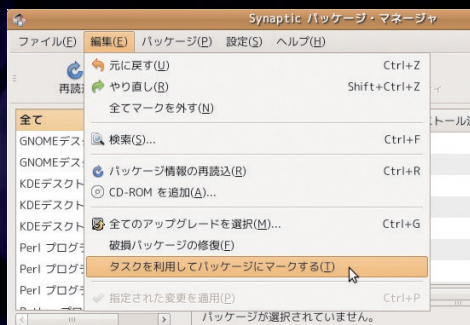
KateOS

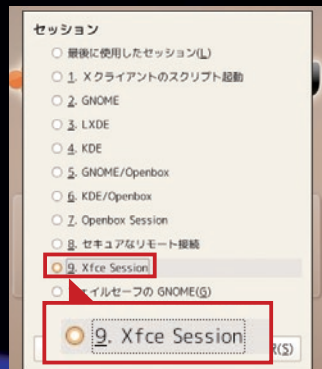
Zenwalk

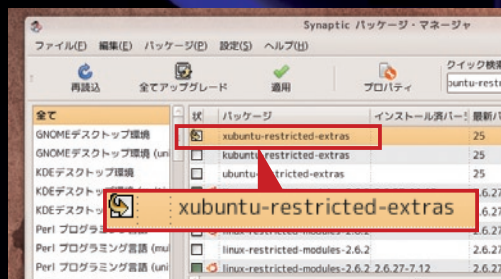
A

B

Xfceの導入手順

UbuntuにはXfceを採用したXubuntuというフレーバーが存在する。UbuntuにXfceを導入する作業はSynapticパッケージマネージャからXubuntuデスクトップのパッケージグループをインストールすることで簡単に行えるぞ。

1 Synapticのタスクを利用

Synapticパッケージマネージャの「編集」→「タスクを利用してパッケージにマークする」から、「Xubuntu desktop」にチェックを付けてXfceのパッケージグループをインストールしよう

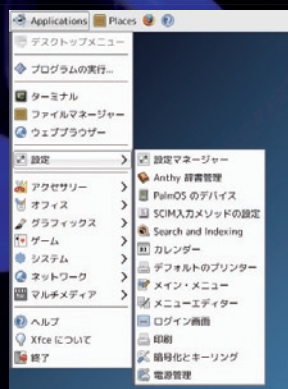
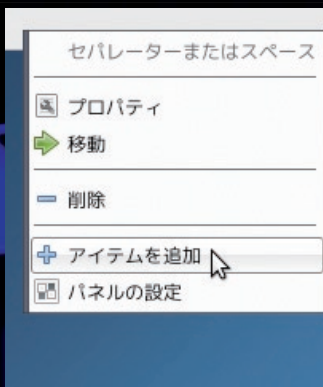
2 ログインオプションで設定

インストール後はログアウトして、ログインオプションの「セッションの選択」から「Xfce session」を選択してログインしよう

併せてインストール

Xfceと共にあわせてインストールをオススメするパッケージは、各種マルチメディアプログラム一式を提供する「xubuntu-restricted-extras」パッケージだ。是非インストールしておこう

Xfceの名前の由来

XfceはもともとXFormsツールキットを用いて開発されており、正式名称はXForms Common Environmentであった。そのため現在は「Xfce」が公式な名称となっている（現在はGTKツールキットで開発されている)。

A Xfceのパネルとアプレット

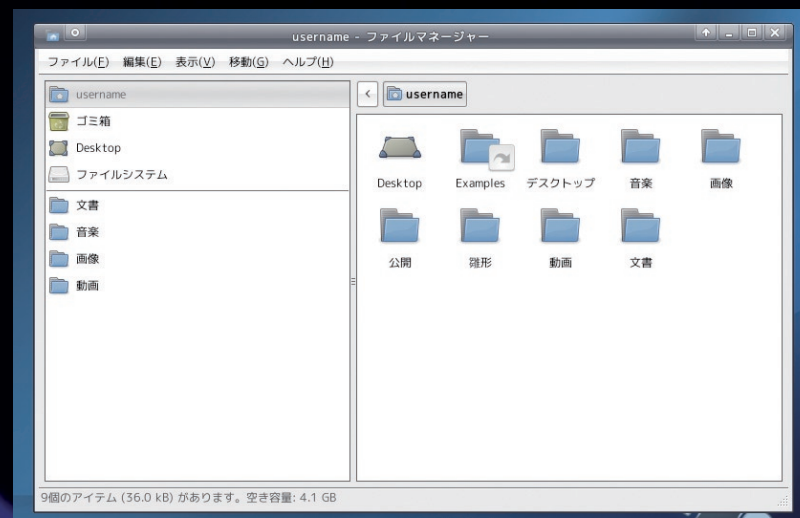
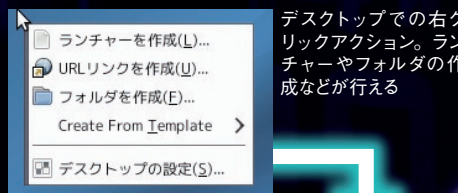
画面上部と下部にデスクトップ・パネルが配置されており、それぞれのパネルにはデスクトップ上の操作や通知機能を持ったアプレットが登録されている。

デスクトップ上部のパネルにある「Applications」や「Places」がXfceのメインメニューだ

デスクトップ・パネルを右クリックして表示される「アイテムを追加」から、パネルにアプレットを追加できる

有用なアプレットがはじめから揃っている。各種アプレットはパネルにドラッグして追加可能だ

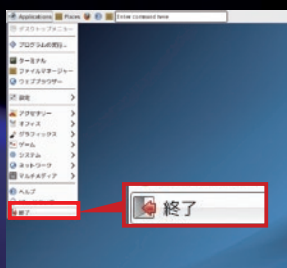
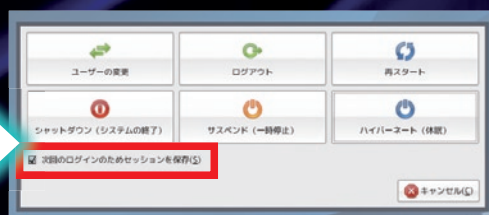
デスクトップ上部のパネルにはメインメニュー、アプリケーションランチャー、システムトレイ、ボリュームコントロール、時計、ログアウトボタンが登録されている

デスクトップ下部のパネルにはデスクトップ表示、ウインドウリスト、ワークスペーススイッチャ、ゴミ箱が登録されている

B ファイルマネージャとデスクトップ

標準ファイルマネージャには使い勝手の良い「Thunar」が採用されている。Thunarにはファイル名やオーディオファイルのタグをリネームするためのBulk Renamerというリネームツールが統合されている。

Thunarはサイドペイン型のファイルマネージャ。サイドペインには標準でデスクトップなどへのショートカットが並んでいる。メニューの「表示」からツリー表示も可能だ

デスクトップでの右クリックアクション。ランチャーやフォルダの作成などが行える

終了時の設定項目

上部パネル左端にあるメインメニューの「Applications」や右端のログアウトボタンから、システムのリブートやシャットダウンを行える。

上部パネルのApplications→終了を選択

「次回のログインのためセッションを保存」にチェックを付けておくと、現在のデスクトップ構成を記憶しておくことができる

LXDE

LXDE Point

低いCPU負荷で
ネットブックに最適!!

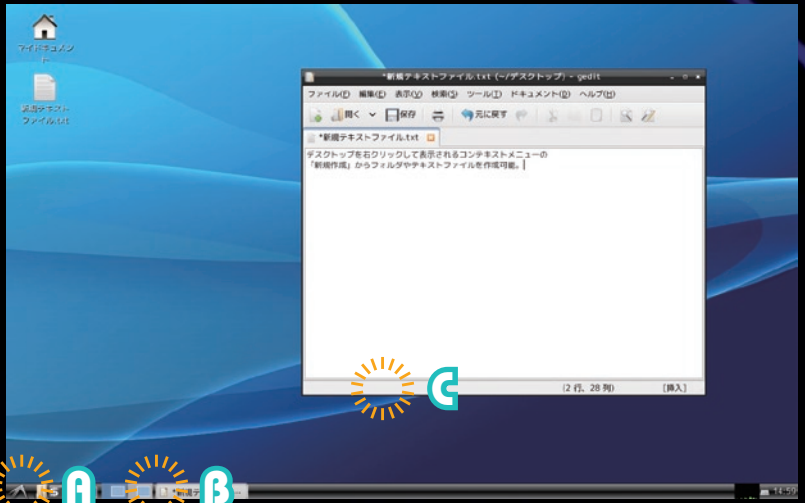
省エネも考慮した軽量デスクトップ環境

「LXDE（Lightweight X11 Desktop Environment)」は、ネットブックのようなコンピュータで高速な動作と省エネルギーを実現する軽量デスクトップ環境だ。

P88で紹介しているXfceと同様に、処理能力が低く通常の作業などが厳しいPCでも、LXDEを導入することで動作の快適なデスクトップ環境を得られるぞ。

LXDE搭載ディストリ

Knoppix

Ubuntulite

LXDEの導入手順

LXDEを導入するには、「lxde」パッケージをSynapticパッケージマネージャからインストールする。軽量なLXDEだけに、関連する依存パッケージも多くないのでインストールはすぐに終わる。

1 Synapticから導入

Synapticパッケージマネージャで「lxde」パッケージをインストールしよう。Synapticの画面右上にあるウインドウから検索すると早い

2 ログインオプションで設定

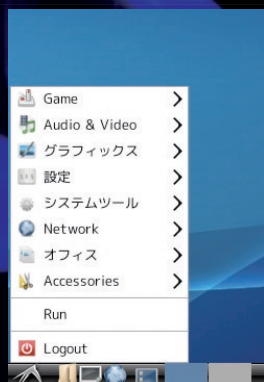
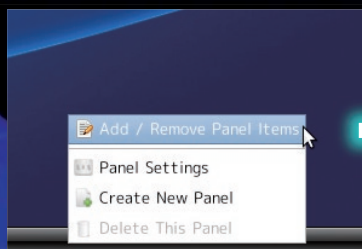
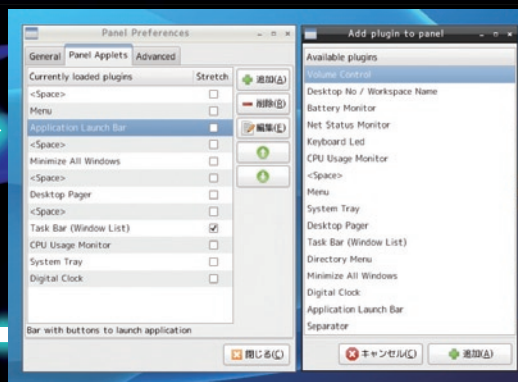
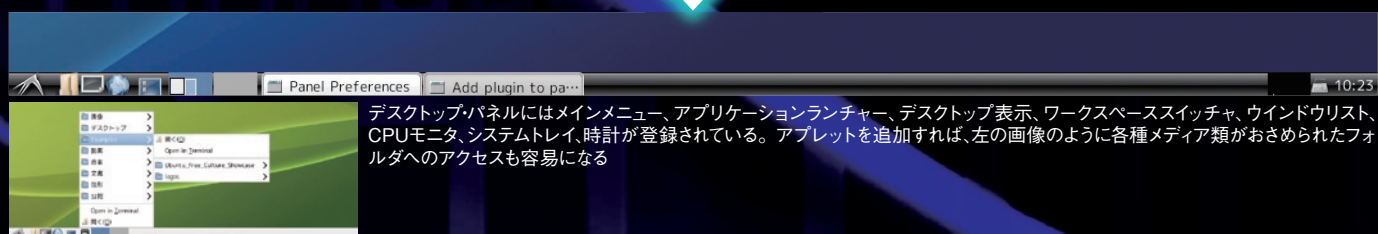
インストール後はログアウトしてログインオプションの「セッションの選択」から「LXDE」を選択してログインしよう

LXDEはおせっかい

LXDEをインストールすると、自動的にLXDEが標準のデスクトップ環境に設定される。そのためLXDEをインストールした後にログアウトすると、すぐにLXDEが起動する可能性がある

ほかのデスクトップを使いたい場合は LXDEからログアウトしてログインオプションの「セッションの選択」でデスクトップ環境を選択してログインすれば、任意のデスクトップ環境を標準のデスクトップ環境に設定できる

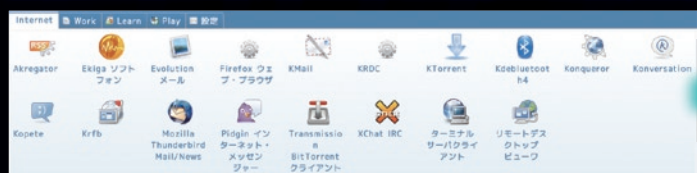
LXDEのパネルとアプレット

画面下部のデスクトップ・パネルには、デスクトップ上の操作や通知機能を持ったアプレットが登録されている。アプレットの種類は多くないので見た目もシンプルだ。

デスクトップ・パネル左端のロゴアイコンがLXDEのメインメニューだ

デスクトップ・パネルを右クリックして表示される「Add / Remove Panel Items」からパネルにアプレットを追加できる

アプレットの種類は多くないが、アプリケーションランチャーやウインドウリストなどの必要な機能は揃っている

デスクトップ・パネルにはメインメニュー、アプリケーションランチャー、デスクトップ表示、ワークスペーススイッチャ、ウインドウリスト、CPUモニタ、システムトレイ、時計が登録されている。アプレットを追加すれば、左の画像のように各種メディア類がおさめられたフォルダへのアクセスも容易になる

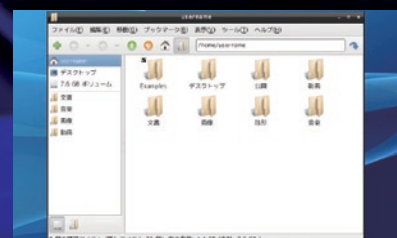
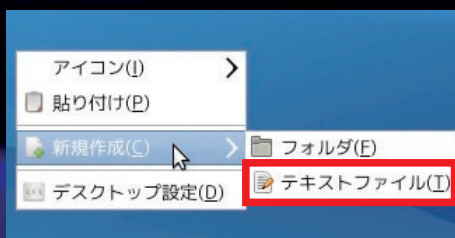
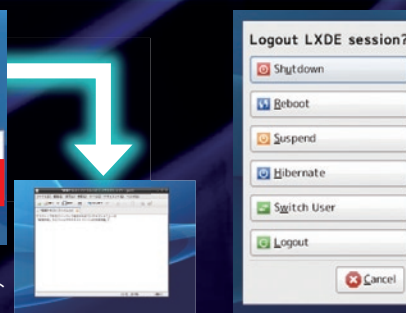
ネットブックに最適なLXLauncher

LXDEをネットブックで利用する場合に便利なのが「LXLauncher」だ。LXLauncherはインストールされたアプリケーションをデスクトップに大きなアイコンで表示するので、タッチパネルで操作可能なネットブックでアプリケーションを起動しやすい。

Synapticパッケージマネージャで「lxlauncher」パッケージをインストール

ランチャーに並んだアイコンをクリックしてアプリケーションを起動する。各アプリケーションは種類ごとにタブでカテゴリーされている

メインメニューの「Run」から「lxlauncher」を実行すると、デスクトップを覆うようにトピック型のランチャーが起動する

ファイルマネージャとログアウト関連

標準のファイルマネージャには高速な動作の「PCManFM」が採用されている（74ページ参照）。PCManFMはLXDEと同じ開発者によって開発されており、LXDEとの統合性は高い。

PCManFMはサイドペイン型のシンプルなファイルマネージャ。ファイル数が膨大なディレクトリも素早く読み込む

デスクトップでの右クリックアクション。フォルダやテキストファイルの作成が可能だ

メインメニューの「Logout」からシステムのリブートやシャットダウンを行える